

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

川学法 第 568号
令和 7年 10月 3日
開設者名 学校法人 川崎学園
理事長 川崎 誠治

川崎医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒701-0192 岡山県倉敷市松島577番地
氏名	学校法人 川崎学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

川崎医科大学附属病院

3 所在の場所

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577番地
電話(086) 462 - 1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科		有					
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input checked="" type="radio"/>		11リウマチ科

診療実績

5神経内科は「脳神経内科」で診療を提供している。 7内分泌内科、8代謝内科は「糖尿病・代謝・内分泌内科」で診療を提供している。 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科は「呼吸器内科」「皮膚科」「小児科」「眼科」「耳鼻咽喉・頭頸部外科」で診療を提供している。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
3乳腺外科、7内分泌外科は「乳腺・内分泌外科」で診療を提供している。 4心臓外科、5血管外科、6心臓血管外科は「胸部・心臓血管外科」で診療を提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	胸部・心臓血管外科	3	糖尿病・代謝・内分泌内科	4	脳神経内科	5	乳腺・内分泌外科
6	形成・美容外科	7	リハビリテーション科	8	耳鼻咽喉・頭頸部外科	9	臨床検査科	10	病理診断科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
28				1,110	1,138	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	375	74	391.5	看護補助者	101	診療エックス線技師	0
歯科医師	5	5	6.1	理学療法士	58	臨床検査技師	76
薬剤師	53	5	56.2	作業療法士	56	衛生検査技師	0
保健師	5	0	5	視能訓練士	17	その他	0
助産師	15	0	15	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	969	21	981.6	臨床工学士	33	医療社会事業従事者	14
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	62
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	0	事務職員	203
管理栄養士	25	0	25	診療放射線技師	44	その他の職員	67

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	34	眼科専門医	6
外科専門医	31	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	10	放射線科専門医	20
小児科専門医	11	脳神経外科専門医	5
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	14
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	8	救急科専門医	7
		合計	183

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (永井 敦) 任年月日 令和 5 年 4 月 1 日

2013年4月1日～2017年3月31日	医療安全管理部長
2016年9月1日～2017年3月31日	医療安全管理責任者

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	560.6 人	1.3 人	561.9 人
1日当たり平均外来患者数	1,465.3 人	51.8 人	1,517.1 人
1日当たり平均調剤数		2,458	剤

必要医師数	144	人
必要歯科医師数	3	人
必要薬剤師数	31	人
必要(准)看護師数	332	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	379.86 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	22 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 163.98 m ²		病床数	16 床		
	[移動式の場合] 台数					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 44.07 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	125.8 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、血液ガス分析装置 糖尿病検査(グルコース・ヘモグロビンA1c)システム		
細菌検査室	113.0 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定質量分析装置、微生物同定感受性分析装置、全自動血液培養装置、全自動遺伝子解析装置		
病理検査室	371.9 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置2台、自動封入装置1台、 自動免疫染色装置2台、クリオスタット2台、 密閉式自動包埋装置2台		
病理解剖室	176.9 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電動上下動式解剖台、 電動上下動式汚物流し付き所見台、 ホルマリンガス室内滅菌中和装置、写真撮影装置2台		
研究室	7,766.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	透過型電子顕微鏡、正置型電子顕微鏡、フロー式顕微鏡、 クリオスタット、遺伝子解析装置(DNAシーケンサー、 リアルタイムPCR)、細胞解析装置(フローサイトメーター)、 実験動物飼育装置、動物実験機器、組織標本作成装置、細胞培養装置		
講義室	2,541.0 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員	1,670 人
図書室	2,946.1 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	15万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.6	%	逆紹介率	71.5	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,108		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,074		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,316		人
	D: 初診の患者の数		21,087		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
江澤 和彦	医療法人和香会理事長	○	医療に関する 学識経験者	無	1
佐々木 基彰	クオーレ法律事務所弁 護士		法律に関する 見識者	無	1
小林 洋明	社会福祉法人 山陽新聞社会事業団 事務局長		一般の立場の者	無	2
砂田 芳秀	川崎医科大学 学長		医療に関する 学識経験者	有	1
平井 敏弘	尾道市立総合医療セン ター 公立みつぎ総合病院 外科顧問		医療安全管理に関する 見識者	無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
川崎医科大学附属病院ホームページに掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	岡山県ドクターヘリ事業	取扱患者数	391
当該医療技術の概要 ドクターヘリにより重症で緊急度の高い傷病者を救命救急センター等の高次医療機関に治療継続しながら搬送することで、搬送傷病者の予後改善、救命率向上に貢献する。(救急科)			
医療技術名	遺伝子増幅法を用いた肺炎マイコプラズマ、肺炎クラミジア感染症の迅速診断	取扱患者数	229
当該医療技術の概要 全国の医療機関から依頼され、real-time PCR法を用いて、非定型細菌感染症の診断と菌量を測定している。(臨床感染症科・小児科)			
医療技術名	遺伝子増幅法を用いた百日咳の迅速診断	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 real-time PCR法を用いて、百日咳の診断と菌量を測定している。(臨床感染症科)			
医療技術名	人工呼吸	取扱患者数	4,573
当該医療技術の概要 全身麻酔下の人工呼吸及びICUでの重症患者に対する人工呼吸を行っている。(臨床腫瘍科・麻酔・集中治療科)			
医療技術名	慢性痛に対する認知行動療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 慢性痛患者に投薬や神経ブロックをするのではなく、生活習慣の改善や工夫を行う。根治が見込める治療法である。(臨床腫瘍科)			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 重症僧帽弁閉鎖不全症に対し経カテーテル的に逆流を治療する方法で、従来の外科治療に比し侵襲度や手術リスクが低く、高齢者や手術リスクの高い患者に対し有用な治療である。(循環器内科)			
医療技術名	経皮的動脈弁置換術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 重症動脈弁狭窄症に対し経カテーテル的に動脈弁を置換する治療で、従来の外科的手術に比し侵襲度や手術リスクが低く、高齢者や手術リスクの高い患者に対し有用な治療である。(循環器内科)			
医療技術名	心臓再同期療法	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 右の心室をペーシングし、心臓内の収縮のタイミングのズレを補正することで、心臓のポンプ機能の改善を図る方法で、重症心不全症例に有用である。(循環器内科)			
医療技術名	埋め込み型除細動器	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 心室頻拍や心室細動などの致死的不整脈患者が出現した際にそれを感知し除細動する機器。心室頻拍や心室細動などの致死的不整脈に対し有用である。(循環器内科)			
医療技術名	局所麻酔下胸腔鏡検査	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 主に胸膜病変や胸水貯留の精査のため、胸腔内の直接観察や胸膜の組織生検、胸水ドレナージを行う内視鏡検査。全身麻酔による胸腔鏡手術と比較し、処置や観察範囲が限定される一方で、侵襲が少なく、内視鏡処置室で呼吸器内科医が行うことができる。(呼吸器内科)			
医療技術名	気管支充填術 (EWS)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 手術等が困難な難治性気胸に対し、内視鏡下に気管支内に充填剤(EWS)を詰め、気胸を改善させる治療方法。気管内のバルーンで気胸の責任気管支を同定し、EWSで塞栓を行う。(呼吸器内科)			

医療技術名	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 <p>静脈鬱滞性潰瘍や皮膚炎などの下肢静脈瘤重症例に対し、その原因となる不全穿通枝を健常皮膚部に2-3cmの小切開を加え、筋膜を切開、筋膜下層を剥離した後、硬性内視鏡を腹膜下腔に留置し、内視鏡を確認しながら不全穿通枝を同定し、切離する。(心臓血管外科)</p>			
医療技術名	開窓型ステントグラフト内挿術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 <p>ステントグラフトの人工血管の一部に穴(開窓)を開けたステントグラフトを用いて行う大動脈手術である。通常のステントグラフト内挿術又はデブランチ法といわれる大動脈から分枝する血管にバイパスを作ってから行うステントグラフト内挿術でも対応困難な症例に対して施行する術式。(心臓血管外科)</p>			
医療技術名	気道内治療	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 <p>悪性および良性疾患による気道狭窄や気管支瘻に対して、全身麻酔下に腫瘍切除、気管支拡張術やステントを留置し気道を確保するものである。(呼吸器外科)</p>			
医療技術名	単孔式胸腔鏡手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 <p>1か所の数cmの傷から行う胸腔鏡手術であり、通常の多孔式胸腔鏡手術と比較して痛みが少なく呼吸機能の温存に優れている。(呼吸器外科)</p>			
医療技術名	腹膜透析と血液透析の併用療法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 <p>両腎代替療法の利点を生かす治療法として施行している。(腎臓内科)</p>			
医療技術名	持続緩徐式血液浄化療法(CRRT)	取扱患者数	61
当該医療技術の概要 <p>術後の重症透析患者や循環動態の不安定な急性腎不全患者に対する腎代替療法、ならびに救急領域等の敗血症性ショックなどの急性期における集約的治療の一つの血液浄化療法であり、24時間持続的かつ緩徐に血液浄化を施行する方法である。当院ではICU/CCU、救急ICU等で施行している。(腎臓内科)</p>			
医療技術名	顆粒球吸着療法	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 <p>顆粒球除去療法は難治性の潰瘍性大腸炎、クローン病、膿疱性乾癬に保険適応されており、専用カラム内に血液を循環させることにより、症状の寛解を目的とした治療法である。(腎臓内科)</p>			
医療技術名	単純血漿交換療法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 <p>肝不全や血液疾患、神経疾患の患者に対して、血液を循環させ、膜型血漿分離器により分離された病原物質が含まれる患者血漿成分を全て排液し、その排液と同等量のFFP(新鮮凍結血漿)にて置換する血液浄化療法である。(腎臓内科)</p>			
医療技術名	血漿吸着療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 <p>神経疾患の患者に対して、膜型血漿分離器により血漿成分を分離した後、血漿中の病因物質を血漿吸着器にて吸着除去する血液浄化療法である。(腎臓内科)</p>			
医療技術名	腹水濾過濃縮再静注法	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 <p>難治性の胸・腹水貯留を認める患者に対してQOL向上を目的に、腹水中の血球成分や癌細胞などを濾過した後に、アルブミンなど蛋白成分を回収して再静注する治療である。自己腹水のため感染のリスクも少なく、アルブミン製剤使用などのコスト削減も可能となる。(腎臓内科)</p>			
医療技術名	直接血液吸着療法	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 <p>吸着器に血液を通し血中の病因物質を吸着除去する血液浄化療法である。(腎臓内科)</p>			
医療技術名	RARC(ロボット支援下根治的膀胱全摘除術)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 <p>手術支援ロボットを用いることで三次元の立体的な画像を見ながら、腫瘍と臓器の正確な位置関係をとらえ、より繊細な手術を行うことが可能になった。また、腹腔鏡手術と同様に傷口が小さいため、術後の痛みが少なく、患者の社会復帰も早めることが期待できる。(泌尿器科)</p>			

医療技術名	RALP(ロボット支援下根治的前立腺全摘除術)	取扱患者数	45
当該医療技術の概要 局所限局性前立腺癌に根治的治療である前立腺全摘除術を手術支援ロボット下に行うことで低侵襲性と拡大視野による良好な制癌効果と尿禁制の温存が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	RAPN(ロボット支援下腎部分切除術)	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 小径の早期腎細胞癌に対して、ロボット支援下に腹腔鏡腎部分切除術を行うことで腎温存と低侵襲性の両方が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	ロボット支援下腎盂形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 手術支援ロボットを用いることで三次元の立体的な画像を見ながら、より繊細な縫合を行うことが可能となり、腹腔鏡手術と同様に傷口が小さいため、術後の痛みが少なく、患者の社会復帰も早めることが期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	高PSA血症例に対するMRI-US融合画像ガイド下前立腺標的生検	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 前立腺マルチパラメトリックMRIと経直腸超音波の画像を融合させてMRIで可視化されている病変を超音波ガイド下で標的生検する技術である。(放射線診断科)、泌尿器科)			
医療技術名	骨髄内臍帯血移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 臍帯血移植の最大の課題である生着不全を減らし予後を改善させる目的で、経静脈的ではなく直接骨髄内へ輸注する移植法である。(血液内科)			
医療技術名	i-densyを用いた造血器腫瘍遺伝子診断	取扱患者数	29
当該医療技術の概要 Qprobe-Tm法を用いて造血器腫瘍関連遺伝子であるJAK2V617F, CALRtype1, CALRtype2, MYD88の検索を行っている。(血液内科、中央検査部)			
医療技術名	持続皮下グルコース測定(CGM)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 主に1型糖尿病症例に対し、1日288回×3日連続で皮下留置センサーにて血糖のモニタリングが可能となった。より詳細な血糖変動の把握が可能である。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	皮下インスリン持続静注療法(CSII)	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 精密なポンプを利用した、インスリン持続皮下注入による血糖のより厳格な管理が可能となる。主に1型糖尿病、糖尿病合併妊娠症例が対象となる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	経頭蓋的磁気刺激法による脳神経機能診断	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 経頭蓋的磁気刺激法は、非侵襲的に錘体路の機能を評価する方法であり、多発性硬化症や神経変性疾患等の診断に有用である。(脳神経内科)			
医療技術名	単一筋線維筋電図による神経・筋疾患の診断	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 単一筋線維筋電図は、神経接合部における伝達障害の最も感度の高い検査法であり、重症筋無力症の診断に有用である。(脳神経内科)			
医療技術名	遺伝性神経・筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	87
当該医療技術の概要 筋ジストロフィー、遺伝性ニューロパチー、神経変性疾患(脊髄小脳変性症、パーキンソン病)を対象として、FISH法、サザンブロット法、PCR法等による遺伝子診断を行う。(脳神経内科)			
医療技術名	眼瞼痙攣、痙性斜頸に対するボツリヌス治療	取扱患者数	264
当該医療技術の概要 眼瞼痙攣、Meige症候群、痙性斜頸を対象として、ボツリヌス毒素の局所注射による治療を行っている。(脳神経内科)			
医療技術名	神経変性疾患に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経難病を対象として、神経細胞に磁気刺激を与えることにより、神経機能の改善をはかる治療法である。(脳神経内科)			

医療技術名	頸動脈ステント留置術(CAS)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 頸動脈狭窄症に対してステントを留置し、脳梗塞の予防を行う(脳卒中科)			
医療技術名	経皮的脳血栓回収術	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 脳主幹動脈閉塞による虚血性脳卒中に対して血栓を、カテーテルで物理的に行う治療(脳卒中科)			
医療技術名	経皮的脳血管形成術(PTA)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 血管の狭くなっている部分や詰まっている部分をバルーンでふくらませて血管を広げる手術(脳卒中科)			
医療技術名	t-PA静注療法(血栓溶解療法)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 発症から4.5時間以内の急性期脳梗塞に対して行う治療(脳卒中科)			
医療技術名	ICM植込み術(植込み型心臓モニタ植込み術)	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 原因不明の潜因性脳梗塞の診断に用いられる医療技術で、ICM(Insertable Cardiac Monitor)と呼ばれる小型の機器を、局所麻酔下で胸部の皮下に植え込み、最長3年間、24時間心臓の動きをモニタリングする(脳卒中科)			
医療技術名	頸動脈ステント留置術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 頸動脈狭窄症に対してステントを留置し、脳梗塞の予防を行う。(脳神経外科)			
医療技術名	脳血管内機械的血栓回収術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 頸動脈狭窄症に対してステントを留置し、脳梗塞の予防を行う。(脳神経外科)			
医療技術名	自家血脊髄パッチ	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 低髄液圧症候群の症例に対して、自家血を脊髄外腔に注入する。(脳神経外科)			
医療技術名	電気けいれん療法	取扱患者数	115
当該医療技術の概要 麻酔科医の協力の下、全身麻酔下で筋弛緩薬を用い、パルス波電流による電気けいれん療法を、重症の感情障害(双極性障害、うつ病性障害)、統合失調症、統合失調感情障害の患者に施行している。(心療科)			
医療技術名	遺伝子シーケンス法を用いたマクロライド耐性マイコプラズマの薬剤感受性測定	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 全国の医療機関から依頼され、マイコプラズマのマクロライド感受性を遺伝子シーケンス法を用いて、迅速に診断している。(臨床感染症科・小児科)			
医療技術名	NICU自動化面会管理支援システム	取扱患者数	106
当該医療技術の概要 2017年に開発したPCシステムで従来の面会台帳、親子連絡帳に代わるものである。 面会者が入退室時にタッチスクリーンの画面に表示される質問事項にボタン操作で回答することにより機能する。主な特徴は、①感染症や部外者の侵入を問診と暗証番号により抑止②面会者、面会の開始・終了日時を記録③面会者が面会中に児に行った主な行動④面会者が感じた児の元気良さと安心度⑤看護治療、医師説明に対する面会者の評価をデータとして記録し、データベース化する。これらのデータは、⑥患者毎に要約、グラフ化されスタッフがオーダーリングシステムからリアルタイムに閲覧することが可能である。 以上により、患者のセキュリティ向上と特にNICUで重要となる家族中心のケア(FCC)を実践することが可能となった。(小児科)			

医療技術名	NICUオーダリングシステムとリンクした搾母乳保存管理データベース(DB)	取扱患者数	106
<p>当該医療技術の概要</p> <p>NICUの入院患者の約62%の家族は児の栄養のために搾母乳(EBM)を定期的にNICUに届けており、医療スタッフはこれらを冷凍保存して使用している。この数は年間約5,000バッグに及び、体液であるそのトレーサビリティを含む管理は厳重かつ詳細である必要がある。2019年に世界で初めて開発したこのシステムはEBM保存管理情報がNICUオーダリングシステムから臨床現場の医師を含めたスタッフ間でリアルタイムに共有可能なEBM管理DBで、保存EBMの正確な出納とトレーサビリティを確保することによりEBM栄養の安全性を確保している。(小児科)</p>			
医療技術名	NICUでのバーコード(BC)を用いた投薬認証(Barcodemedication administration:BCMA)システム	取扱患者数	106
<p>当該医療技術の概要</p> <p>NICUでは患者がとても小さいことにより薬剤は体重当たり計算、混注投与されることが一般的であり、回避可能薬物有害事象(pADEs)の発生率が一般成人病棟の3倍以上であることが知られている。成人病棟でのBCMAシステムは本邦でも普及は進んでいるがNICU用のものは世界的にも極めて限定的である。このシステムは2019年に開発導入したものであるが、以降本NICUでの投薬時のpADEsは皆無となり、患者の安全性を確保している。(小児科)</p>			
医療技術名	バーコード認証を用いたNICU用輸液・薬剤調製支援システム	取扱患者数	78
<p>当該医療技術の概要</p> <p>NICU内で行われる薬剤の調製による投薬過誤の抑制を目的にタッチモニターで操作する世界初の輸液・薬剤調製支援システムである。これは調製に必要な各薬剤名とその量、調製に使用する溶解液とその量、投薬法の情報をモニターに表示する。調剤作業は各薬剤をバーコード(BC)照合し、調製済み薬剤を画面タッチして白抜き表示にしながら進捗するため、正しい薬剤について漏れ、重複無く、手順良く調製を行うことが可能となり、作業時に感ずるストレスは軽減した。調製の完了時にソフトウェア内でBCラベルを印刷し照合するため必ず正しいBCラベルが調製済み薬剤に貼付され、ベッドサイドでのBCによる3点認証により投薬するので、正しい「薬物、量、時間、投与路、患者」をNICU内の調製過程でも担保することが可能となった。(小児科)</p>			
医療技術名	漏斗胸に対する胸腔鏡下胸骨挙上術	取扱患者数	5
<p>当該医療技術の概要</p> <p>チタンバーを脇の小切開創から挿入し、胸壁を持ち上げる方法で従来法と比較すると、手術時間が短く、出血量も少なく、傷も目立たない低侵襲手術である。(小児外科)</p>			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(LPEC法)	取扱患者数	12
<p>当該医療技術の概要</p> <p>臍から腹腔鏡を挿入し、腹腔内から観察しながら、腹膜症状突起の根部(ヘルニア囊)の結紮を行います。従来法と比較すると創痕が小さく、さらに反対側開存の検索と治療が同時に可能である。(小児外科)</p>			
医療技術名	小児鏡視下手術	取扱患者数	27
<p>当該医療技術の概要</p> <p>小児では体が小さいため技術的には難しいが、傷が小さくできる・手術後の痛みが少ない・術後の回復が早いなどの利点がある。(小児外科)</p>			
医療技術名	腹腔鏡下広汎子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がん)	取扱患者数	1
<p>当該医療技術の概要</p> <p>腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)の施設基準を満たし、適応疾患として、IA1期、IA2期、IB1期、IIA1期に行っている。(産婦人科)</p>			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下子宮悪性手術(子宮体がん)	取扱患者数	16
<p>当該医療技術の概要</p> <p>ロボット支援腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)の施設基準を満たし、適応疾患として、IA期に行っている。(産婦人科)</p>			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	27
<p>当該医療技術の概要</p> <p>ロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術の施設基準を満たし、適応疾患として、骨盤臓器脱に行っている。(産婦人科)</p>			
医療技術名	合併症妊娠の管理	取扱患者数	70
<p>当該医療技術の概要</p> <p>内科的・外科的合併症を有した妊娠・分娩管理を行って健常な児の出産に結び付ける。(産婦人科)</p>			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するリスク低減対側乳房切除術	取扱患者数	2
<p>当該医療技術の概要:BRCA1/2に病的バリエントを有する乳癌患者に対し、リスク低減対側乳房切除を実施している。(乳腺甲状腺外科)</p>			

医療技術名	自己血回収器具を用いた術中自己血回収	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 術中に自己血回収器具を使用し出血を回収。無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて赤血球を集積、洗浄し赤血球濃厚液として回収。これを自己血として使用する。(整形外科)			
医療技術名	インストルメンテーションを用いた脊柱再建術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 変形性脊椎疾患、脊椎の外傷、転移性脊椎腫瘍に対してインストルメンテーションを用いて脊椎再建術を行なう。変形矯正とともに強固な固定が得られ、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下脊椎手術	取扱患者数	154
当該医療技術の概要 内視鏡視下手術手技を用いて、後方進入腰椎椎間板ヘルニア摘出術、腰椎椎弓切除術、頸椎椎弓切除術を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	脊髄誘発電位測定	取扱患者数	72
当該医療技術の概要 脊椎・脊髄の手術において脊髄誘発電位をモニタリングすることで安全に手術が行なえる。(整形外科)			
医療技術名	関節鏡視下手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 関節鏡を用いて股関節唇障害や膝半月板損傷、棚障害、関節鼠に対して、鏡視下に縫合術や切除・摘出術を行なう。さらに関節内骨折に対する整復固定術や靭帯再建術も関節鏡視下に行なう。侵襲が少なく、術後の機能回復が早い。(整形外科)			
医療技術名	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	取扱患者数	120
当該医療技術の概要 術前に骨盤から足までのCTを撮影し、それを3次元的に再構築したうえで、術前計画を行う。その後に人工股関節置換術をナビゲーションを用いて施行する。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下脊椎前方固定術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 内視鏡視下手術手技を用いて、胸腰椎前方固定を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	乳癌患者における即時自家組織移植術	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 乳癌患者において、乳腺外科と合同で乳房切除と同時に即時自家再建移植を行っている。即時再建を行うことで、乳房の喪失感の軽減、治療期間の短縮につながる。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	リンパ浮腫に対するリンパ節移植術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 健常部位から採取したリンパ節をリンパ浮腫が生じている部位に移植し、顕微鏡下にリンパ管に加えて血管吻合を行う。変性したリンパ管のうっ滞したリンパ液の排出を促す。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	顔面神経動的再建術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺の患者において、広背筋を血管と神経をつけて採取し、顔面に移植する。顔面で血管と神経をそれぞれ顕微鏡下に吻合し、麻痺した顔面の動きを回復させる。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	HAL	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 緩徐進行性の神経筋疾患患者に対して歩行能力改善目的に使用するサイボーグ型ロボット(リハビリテーション科)			
医療技術名	ウェルウオーク	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 脳血管障害等で歩行ができなくなった患者に対しての歩行訓練(運動学習)支援ロボット(リハビリテーション科)			
医療技術名	高次脳機能障害の社会復帰を目的としたリハビリテーション治療	取扱患者数	70
当該医療技術の概要 高次脳機能障害者の社会復帰のため個別/集団リハを行い、復帰率を高める。(リハビリテーション科)			

医療技術名	嚥下障害患者に対する電気刺激療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 嚥下障害患者に対して、随意収縮介助型電気刺激(IVES:アイビス)や、干渉波電気刺激機器(ジェントルスティム)を用い機能回復を図る。(リハビリテーション科)			
医療技術名	肝動脈化学塞栓術、動注化学療法	取扱患者数	35
当該医療技術の概要 経カテーテル的に肝細胞癌の栄養動脈に抗癌剤と塞栓剤で塞栓する。経カテーテル的に肝動脈から抗癌剤を動注する。(消化器内科)			
医療技術名	ラジオ波焼灼術、ラジオ波凝固療法	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 超音波ガイド下に肝細胞に電極針を穿刺し焼灼する。(消化器内科)			
医療技術名	内視鏡的静脈瘤結紮術、硬化療法	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 食道・胃静脈瘤に対して内視鏡的に結紮、硬化剤を注入する。(消化器内科)			
医療技術名	バルーン閉塞下逆行性静脈瘤塞栓術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 胃静脈瘤に対して経カテーテル的に胃腎シャントから硬化剤を注入して塞栓する。(消化器内科)			
医療技術名	肝生検	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 超音波ガイド下に肝を穿刺し組織を採取する。(消化器内科)			
医療技術名	内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	取扱患者数	976
当該医療技術の概要 総胆管に内視鏡を挿入し、その先に付いた細いチューブから造影剤を注入し、胆道系、膵管を直接造影する。(消化器内科)			
医療技術名	超音波内視鏡(Interventional EUS(EUS-BD、EUS-CD、EUS-PDなど))	取扱患者数	269
当該医療技術の概要 胆管、膵管を消化管内より超音波内視鏡で確認し、消化管壁を介してドレナージチューブや、膵管胆管への処置具を挿入して処置をおこなう。(消化器内科)			
医療技術名	超音波内視鏡(超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUSFNA)など)	取扱患者数	72
当該医療技術の概要 内視鏡の先端についた超音波で診断したい病変をリアルタイムに観察しつつ病変を穿刺し、吸引により細胞診や組織診のための細胞を採取する。(消化器内科)			
医療技術名	経皮経肝胆管ドレナージ(PTCD)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 皮膚、肝臓を通して肝内胆管に穿刺針を刺し、その穿刺針を留置用のチューブに置き換えて持続的に胆汁を体外に排泄する。(消化器内科)			
医療技術名	胆膵内視鏡治療(ステント留置術、内視鏡的乳頭切開(EST)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術、胆管・膵管ドレナージ、膵膿瘍ドレナージ、神経ブロック)	取扱患者数	717
当該医療技術の概要 内視鏡下に胆道(胆管・胆嚢)・膵管・十二指腸等にステントを埋め込む治療や、内視鏡的乳頭切開十二指腸乳頭(総胆管の十二指腸への出口)を広くする目的で、乳頭部を内視鏡を通して挿入した電気メスで切開したり、バルーン(小さな風船)を入れて短時間膨らませて乳頭部を拡張したりする処置。ESTは十二指腸まで内視鏡を入れ、電気メスにより大十二指腸乳頭の乳頭括約筋を切開する。(消化器内科)			
医療技術名	ダブルバルーン内視鏡による診療	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 経口および経肛門的にダブルバルーン小腸内視鏡により小腸病変の観察を行い、腫瘍病変の生検および出血病変の止血や狭窄病変の拡張など治療を行う(消化器内科)			

医療技術名	カプセル内視鏡検査	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 小腸病変が疑われる患者を中心にパテンシーを活用し滞留の危険性を回避して非侵襲的に小腸の全域をカプセル内視鏡で診断する検査を行う(消化器内科)			
医療技術名	食道内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 早期の食道癌に対して内視鏡的に切除し、腫瘍の完全切除を行い完治させる治療を行う。(消化器内科)			
医療技術名	胃内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	取扱患者数	67
当該医療技術の概要 早期の胃癌に対して内視鏡的に切除し、腫瘍の完全切除を行い完治させる治療を行う。(消化器内科)			
医療技術名	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	取扱患者数	33
当該医療技術の概要 早期の大腸癌に対して内視鏡的に切除し、腫瘍の完全切除を行い完治させる治療を行う。(消化器内科)			
医療技術名	大腸内視鏡的粘膜切除	取扱患者数	477
当該医療技術の概要 大腸の主に腺腫に対して cold polypectomy endoscopic mucosal resection(EMR) 浸水下内視鏡的粘膜切除術(UEMR)により腫瘍を摘出する。(消化器内科)			
医療技術名	十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 主に十二指腸腺腫に対して穿孔等の合併症のリスクを回避する浸水下内視鏡的粘膜切除術(UEMR)で腫瘍を摘出する。(消化器内科)			
医療技術名	胸腔鏡下食道切除術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 食道がん手術を胸腔鏡、腹腔鏡下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下胃癌手術	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 胃癌手術を腹腔鏡下(補助下含む)にて行う低侵襲手術である。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 大腸癌手術を腹腔鏡下(補助下含む)にて行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 肝臓癌(原発性、転移性)手術を腹腔鏡下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下膵・胆道切除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 胆管癌、膵臓癌手術を腹腔鏡下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	黄斑下出血に対する出血移動術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 組織プラスミノゲン活性化因子を用いて迅速に出血を溶解し、出血移動術を行う。(眼科)			

医療技術名	難治性ぶどう膜炎に対する治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患をPCR法により迅速診断し、治療を行う。(眼科)			
医療技術名	難治性アレルギー性鼻炎に対するアレルゲン免疫療法	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 アレルギー性鼻炎は対症療法の治療法が行われていることが多いが、難治性の場合には根本的治療法も推奨されている。我々の施設では積極的に免疫療法を推奨し有効性を報告している。(耳鼻咽喉・頭頸部外科)			
医療技術名	頭頸部癌に対する分子標的薬の投与	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 再発・遠隔転移頭頸部癌に対して、EGFR抗体治療薬を積極的に用い、従来の抗がん剤に併用している。(耳鼻咽喉・頭頸部外科)			
医療技術名	頭頸部癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の投与	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 再発・遠隔転移頭頸部癌に対して、免疫チェックポイント阻害薬を投与し治療している。(耳鼻咽喉・頭頸部外科)			
医療技術名	頭頸部癌に対する鏡視下腫瘍切除	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 表在性咽頭癌を主な対象として、鏡視下腫瘍切除を行い、低侵襲治療に努めている。(耳鼻咽喉・頭頸部外科)			
医療技術名	いびき・閉塞性睡眠時無呼吸症に対する複合的治療	取扱患者数	200
当該医療技術の概要 いびき・閉塞性睡眠時無呼吸症に対する治療はCPAPによる保存的治療のみではない。当科では小児から成人まで、鼻呼吸生理学の観点に基づき、鼻閉に対する保存的治療から、口蓋扁桃切除術、咽頭形成術、口腔内装置、睡眠体位指導など、複合的な治療を行うことで患者のQOL向上に努めている。(耳鼻咽喉・頭頸部外科)			
医療技術名	音声障害に対する音声外科手術	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 当科では音声外来(ボイスセンター)を開設し様々な音声障害に対し保存的治療から外科的治療まで幅広い治療を行っている。声帯病変に対しては、従来の顕微鏡下手術に代わり、より確実な視野で繊細な手術が可能な内視鏡下喉頭微細手術を実施している。また、喉頭麻痺に対する喉頭形成術では、コンピューター上の術前シミュレーションを行うなどして治療成績の向上に努めている。さらに、痙攣性発声障害に対してBTX注射やチタンブリッジを用いた喉頭形成術II型も実施している。(耳鼻咽喉・頭頸部外科)			
医療技術名	頭頸部アルミノックス治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 切除不能再発頭頸部がんに対して、分子標的薬とレーザー光照射を組み合わせた治療である。(耳鼻咽喉・頭頸部外科)			
医療技術名	周術期口腔機能管理	取扱患者数	1,200
当該医療技術の概要 当院で全身麻酔下手術を受ける患者の口腔内を診査し、歯科の介入が必要と判断した患者に対し、専門的口腔ケアや抜歯を含む口腔機能管理を行っている。また、挿管・抜管時の歯牙脱落や損傷、誤飲・誤嚥を予防する目的で口腔内装置を作製している。(歯科・口腔外科)			
医療技術名	骨吸収抑制薬等投与患者に対する口腔管理	取扱患者数	400
当該医療技術の概要 骨粗鬆症、悪性腫瘍の骨転移に対して骨吸収抑制薬を投与される患者に対し、口腔内の評価・治療を行い、顎骨壊死の予防・治療を行っている。(歯科・口腔外科)			
医療技術名	病棟における専門的口腔ケア	取扱患者数	200
当該医療技術の概要 医科入院中の患者に対し、口腔内細菌に関連する全身状態増悪を予防する目的で専門的口腔ケアを行っている。(歯科・			
医療技術名	疼痛緩和を目的とした経動脈的チエナム(注射用イミペネム・シラスタチンナトリウム)塞栓術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 慢性炎症に伴う微小な異常血管や動静脈短絡に対し、経動脈的に血管塞栓術を施行することで疼痛の改善、軽減するという治療法である。(放射線診断科)			

医療技術名	バルーン閉塞静脈分離による副腎静脈サンプリング	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 二次性高血圧症の原因となっている原発性アルドステロン症のホルモン産生病変の局在診断である副腎静脈サンプリングをバルーンを用いて静脈分離することにより、簡便に行うことができる検査法である。(放射線診断科)			
医療技術名	消化管出血の止血を目的とした経動脈的チエナム(注射用イミペネム・シラスタチンナトリウム)塞栓術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 超短時間型の塞栓効果を有するチエナム(注射用イミペネム・シラスタチンナトリウム)を用いることでカテーテル血管造影で出血点不明な場合や出血点にカテーテルが到達できなかった場合に塞栓術を施行できる。(放射線診断科)			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	176
当該医療技術の概要 コンピューター制御で治療ビームの強度を最適化することにより、従来の照射方法よりも有害事象の低減と、高い根治性を期待できる。(放射線治療科)			
医療技術名	定位放射線治療	取扱患者数	38
当該医療技術の概要 専用の体幹部固定具を用いて位置精度を高め画像誘導放射線治療との併用により、病変のみピンポイントで高線量を照射できる。肺、肝、脳病変の他、脊椎病変に対しても適応を広げている。(放射線治療科)			
医療技術名	高線量率小線源治療	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 婦人科癌や前立腺癌に対し、根治性の高い治療として実施している。密封小線源治療装置は、2021年12月に機器老朽化及びメーカーのサポート終了のため、休止した。現在は予算申請中である。(放射線治療科)			

その他の高度医療の種類合計数	112
取扱い患者数の合計(人)	12,563

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	33
2	筋萎縮性側索硬化症	20	57	特発性拡張型心筋症	43
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	肥大型心筋症	13
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	33
6	パーキンソン病	199	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	免疫性血小板減少症	37
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	84	66	IgA 腎症	60
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	45
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	60	68	黄色靱帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	33	69	後縦靱帯骨化症	64
15	封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クロー・深瀬症候群	3	71	特発性大腿骨頭壊死症	68
17	多系統萎縮症	26	72	下垂体性ADH分泌異常症	9
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	45	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	93	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	40
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	10	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	25
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	19
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	4
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	25	90	網膜色素変性症	20
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性胆管炎	93
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	23	95	自己免疫性肝炎	8
41	巨細胞性動脈炎	19	96	クローン病	179
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	252
43	顕微鏡的多発血管炎	42	98	好酸球性消化管疾患	26
44	多発血管炎性肉芽腫症	19	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	12	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	205	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	106	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	111	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	21	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	33	108	TNF受容体関連周期性症候群	2
54	成人発症スチル病	21	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	2	161	家族性良性慢性天疱瘡	2
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	20
113	筋ジストロフィー	16	163	特発性後天性全身性無汗症	10
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー病	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキササンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガスター症候群	0	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	7	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	睡眠時棘徐波活性化を示す発達性てんかん性脳症及びてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	左心低形成症候群	266	家族性地中海熱	2
0	三尖弁閉鎖症	267	高IgD症候群	0
0	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	268	中條・西村症候群	0
0	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アク ネ症候群	0
0	ファロー四徴症	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
0	両大血管右室起始症	271	強直性脊椎炎	7
0	エプスタイン病	272	進行性骨化性線維異形成症	0
1	アルポート症候群	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
0	ギャロウェイ・モワト症候群	274	骨形成不全症	1
2	急速進行性糸球体腎炎	275	タナトフォリック骨異形成症	0
1	抗糸球体基底膜腎炎	276	軟骨無形成症	0
39	一次性ネフローゼ症候群	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
1	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
4	紫斑病性腎炎	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病 変)	0
0	先天性腎性尿崩症	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
2	間質性膀胱炎(ハンナ型)	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
2	オスラー病	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
0	閉塞性細気管支炎	283	後天性赤芽球癆	3
0	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
1	肺胞低換気症候群	285	ファンconi貧血	0
0	α 1-アンチトリプシン欠乏症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
0	カーニー複合	287	エプスタイン症候群	0
0	ウォルフラム症候群	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
0	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロ フィーを除く。)	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
2	副甲状腺機能低下症	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	3
1	偽性副甲状腺機能低下症	291	ヒルシウスブルグ病(全結腸型又は小腸 型)	0
0	副腎皮質刺激ホルモン不応症	292	総排泄腔外反症	0
2	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	293	総排泄腔遺残	1
0	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
0	フェニルケトン尿症	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
0	高チロシン血症1型	296	胆道閉鎖症	0
0	高チロシン血症2型	297	アラジール症候群	0
0	高チロシン血症3型	298	遺伝性膀胱炎	0
1	メープルシロップ尿症	299	嚢胞性線維症	0
0	プロピオン酸血症	300	IgG4関連疾患	12
0	メチルマロン酸血症	301	黄斑ジストロフィー	0
0	イソ吉草酸血症	302	レーベル遺伝性視神経症	0
0	グルコーストランスポーター1欠損症	303	アッシュヤー症候群	0
0	グルタル酸血症1型	304	若年発症型両側性感音難聴	0
0	グルタル酸血症2型	305	遅発性内リンパ水腫	0
0	尿素サイクル異常症	306	好酸球性副鼻腔炎	67
0	リジン尿性蛋白不耐症	307	カナバン病	0
0	先天性葉酸吸収不全	308	進行性白質脳症	0
0	ポルフィリン症	309	進行性ミオクロームスてんかん	1
0	複合カルボキシラーゼ欠損症	310	先天異常症候群	0
0	筋型糖原病	311	先天性三尖弁狭窄症	0
0	肝型糖原病	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
0	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランス フェラーゼ欠損症	313	先天性肺静脈狭窄症	0
0	レシチンコレステロールアシルトランスフェ ラーゼ欠損症	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
0	システロール血症	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
0	タンジール病	316	カルニチン回路異常症	0
0	原発性高カイロミクロン血症	317	三頭酵素欠損症	0
0	脳腫黄色腫症	318	シトリン欠損症	0
0	無 β リポタンパク血症	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
0	脂肪萎縮症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシト ール(GPI)欠損症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0	335	ネフロン癆	1
322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0	337	ホモシスチン尿症	0
324	メチルグルタコン酸尿症	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
325	遺伝性自己炎症疾患	0	339	MECP2重複症候群	0
326	大理石骨病	0	340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0	341	TRPV4異常症	0
328	前眼部形成異常	0	342	LMNB1 関連大脳白質脳症	0
329	無虹彩症	0	343	PURA 関連神経発達異常症	0
330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0	344	極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症	0
331	特発性多中心性キャスルマン病	2	345	乳児発症 STING 関連血管炎	0
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0	346	原発性肝外門脈閉塞症	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0	347	出血性線溶異常症	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0	348	口ウ症候群	0

疾患数	121
合計患者数(人)	2,688

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・歯科外来診療感染対策加算3
・特定機能病院入院基本料	・救急医療管理加算
・超急性期脳卒中加算	・診療録管理体制加算2
・医師事務作業補助体制加算1	・急性期看護補助体制加算
・看護職員夜間配置加算	・療養環境加算
・重症者等療養環境特別加算	・無菌治療室管理加算1
・無菌治療室管理加算2	・緩和ケア診療加算
・精神科身体合併症管理加算	・摂食障害入院医療管理加算
・栄養サポートチーム加算	・医療安全対策加算1
・感染対策向上加算1	・患者サポート体制充実加算
・重症患者初期支援充実加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・呼吸ケアチーム加算	・術後疼痛管理チーム加算
・データ提出加算	・入退院支援加算
・精神科入退院支援加算	・認知症ケア加算
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	・精神疾患診療体制加算
・排尿自立支援加算	・地域医療体制確保加算
・地域歯科診療支援病院入院加算	・救命救急入院料4
・特定集中治療室管理料3	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・新生児特定集中治療室管理料2	・小児入院医療管理料2
・緩和ケア病棟入院料1	・特定機能病院リハビリテーション病棟入院料
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・がん患者指導管理料イ
・がん患者指導管理料ロ	・がん患者指導管理料ハ
・がん患者指導管理料ニ	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・糖尿病透析予防指導管理料
・小児運動器疾患指導管理料	・婦人科特定疾患治療管理料
・腎代替療法指導管理料	・一般不妊治療管理料
・二次性骨折予防継続管理料1	・二次性骨折予防継続管理料3
・下肢創傷処置管理料	・慢性腎臓病透析予防指導管理料
・地域連携小児夜間・休日診療料2	・院内トリアージ実施料
・外来放射線照射診療料	・外来腫瘍化学療法診療料1
・ニコチン依存症管理料	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・がん治療連携計画策定料
・外来排尿自立指導料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・肝炎インターフェロン治療計画料
・薬剤管理指導料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料(歯科)	・歯科治療時医療管理料
・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算	・救急患者連携搬送料
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	・染色体検査の注2に規定する基準
・骨髄微小残存病変量測定	・BRCA1/2遺伝子検査
・がんゲノムプロファイリング検査	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・検体検査管理加算(IV)	・国際標準検査管理加算
・遺伝カウンセリング加算	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・胎児心エコー法	・ヘッドアップティルト試験
・単線維筋電図	・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
・神経学的検査	・補聴器適合検査
・全視野精密網膜電図	・ロービジョン検査判断料
・コンタクトレンズ検査料1	・小児食物アレルギー負荷検査
・内服・点滴誘発試験	・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
・口腔細菌定量検査	・画像診断管理加算1
・画像診断管理加算4	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・CT撮影及びMRI撮影	・冠動脈CT撮影加算
・外傷全身CT加算	・心臓MRI撮影加算
・乳房MRI撮影加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・頭部MRI撮影加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1	・無菌製剤処理料
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・運動器リハビリテーション料(I)	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・がん患者リハビリテーション料	・集団コミュニケーション療法料
・歯科口腔リハビリテーション料2	・認知療法・認知行動療法1
・精神科作業療法	・医療保護入院等診療料
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・多血小板血漿処置
・硬膜外自家血注入	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・人工腎臓
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・ストーマ合併症加算	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・舌下神経電気刺激装置植込術
・羊膜移植術	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・内視鏡下鼻副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・胸腔鏡下弁形成術
・胸腔鏡下弁置換術	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・経皮的僧帽弁クリップ術	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・補助人工心臓	・経皮的下肢動脈形成術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・精巣温存手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・体外式膜型人工肺管理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・輸血管管理料 I	・輸血適正使用加算
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・コーディネート体制充実加算
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・同種クリオプレシピテート作製術
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・歯周組織再生誘導手術	・麻酔管理料(I)
・麻酔管理料(II)	・放射線治療専任加算
・外来放射線治療加算	・高エネルギー放射線治療
・一回線量増加加算	・強度変調放射線治療(IMRT)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児M.pneumoniae感染症における免疫機構およびマクロライド耐性機構の解明	大石智洋	臨床感染症科	1,560,000	補委 富士ファイルム株式会社
光干渉断層イメージングのAI解析に基づく冠動脈疾患の包括的ケアシステムの構築	上村 史朗	循環器内科	300,000	補委 文部科学省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	小賀 徹	呼吸器内科	100,000	補委 厚生労働省
肺がん免疫療法の効果を予測する多抗原性血清抗体検出パネルの臨床開発	黒瀬浩史	呼吸器内科	900,000	補委 日本学術振興会
心筋酸素消費を考慮した新しい冠動脈バイパスグラフト評価指標の開発	畝 大	心臓血管外科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費
難治性腎障害に関する調査研究	長洲 一	腎臓内科	300,000	補委 厚生労働省
トランスオミクス解析による慢性腎臓病診療変革への挑戦	長洲 一	腎臓内科	1,000,000	補委 AMED
老化関連腎障害におけるTRPC依存的Ca動態による糸球体内微小炎症の制御機構解明	長洲 一	腎臓内科	2,600,000	補委 日本学術振興会
糸球体濾過率(GFR)制御におけるKeap1-Nrf2機構の役割の解明	城所 研吾	腎臓内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
ストレスDNA損傷と腎臓病増悪の関係性の解明	岸 誠司	腎臓内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
HIV診療医師情報網支援事業	和田秀穂	血液内科	1,350,000	補委 エイズ予防財団
コミュニティセンターを活用したMSMに対するHIV感染症の有効な普及啓発方法に関する研究	和田秀穂	血液内科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費
膵β細胞ブドウ糖毒性から見た新規糖尿病治療薬の探索	金藤 秀明	糖尿病・代謝・内分泌内科	780,000	補委 日本学術振興会
2型糖尿病における臨床応用可能な個別化運動指導法の創出	中西 修平	糖尿病・代謝・内分泌内科	390,000	補委 日本学術振興会
ブドウ糖毒性が膵ラ氏島のm6A RNAメチル化不全に与える影響	木村 友彦	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,820,000	補委 日本学術振興会
イメグリミンによるミトコンドリア機能の活性化が肥満2型糖尿病モデルマウスの運動機能へ与える影響	真田 淳平	糖尿病・代謝・内分泌内科	500,000	補委 日本糖尿病財団研究助成
膵ラ氏 m6A RNAメチレーションと糖毒性の解析	木村 友彦	糖尿病・代謝・内分泌内科	600,000	補委 日本糖尿病研究・教育基金研究助成
グルココルチコイドが膵β細胞機能・形態に与える影響の解析	岩本 侑一郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	600,000	補委 日本糖尿病協会若手研究者助成
GIP/GLP-1受容体作動薬の抗動脈硬化作用の検討	岩本 侑一郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	補委 公益信託日本動脈硬化予防研究基金

膝β細胞に着目したステロイド糖尿病発症メカニズムの解明	岩本 侑一郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	2,000,000	補委	鈴木万平糖尿病財団若手研究者調査研究助成金
ヒヤリ/ハットを見える化する<高齢者運転リスク評価のためのバイオマーカーの確立>(分担)	三原 雅史	脳神経内科	200,000	補委	文部科学省 学術研究助成基金
カベオリン-3による筋ジストロフィー治療の基盤研究	大澤 裕	脳神経内科	1,000,000	補委	文部科学省 学術研究助成基金助成金
ネクロプトーチンシグナルに介入する筋ジストロフィーの経口環状ペプチド医薬の探索	大澤 裕	脳神経内科	19,300,000	補委	日本医療研究開発機構 委託研究開発費
筋ジストロフィー関連疾患の分子病態解明とそれに基づく診断法・治療法開発(分担)	大澤 裕	脳神経内科	400,000	補委	国立精神・神経医療研究センター精神・神経疾患研究開発費
筋ジストロフィーの標準的医療普及のための調査研究(分担)	大澤 裕	脳神経内科	400,000	補委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ヒヤリ/ハットを見える化する<高齢者運転リスク評価のためのバイオマーカーの確立>	久徳 弓子	脳神経内科	500,000	補委	文部科学省 科学研究費補助金
ニューロフィードバックを用いた高齢者の転倒に関わる神経基盤の解明	梶山 裕太	脳神経内科	1,300,000	補委	文部科学省 学術研究助成基金助成金
ライフコース予防接種時代のワクチンの有効性と安全性評価に関する研究	中野 貴司	小児科	500,000	補委	AMED
ワクチンの有効性・安全性の疫学的評価と予防接種政策の最適化に資する研究	中野 貴司	小児科	1,000,000	補委	厚生労働省
重点感染症に対する感染症対応医薬品等(MCM)利用可能性確保の方針検討に資する研究	中野 貴司	小児科	600,000	補委	厚生労働省
新生児の解剖学・生理学的特徴に基づく直視下およびビデオ喉頭鏡の同時開発	三浦 真澄	小児科	1,200,000	補委	文部科学省
膀胱移行上皮細胞の頂端膜機能を担うセラミド骨格の構造多様性	松田 純子	小児科	1,170,000	補委	文部科学省
リゾソーム病とオートファジーを繋ぐ分子:プロサポシンの機能解析	松田 純子	小児科	30,000	補委	文部科学省
クラッペ病の病態を悪化させるメカニズムの探索	松田 純子	小児科	200,000	補委	文部科学省
中枢性希少疾患シアリドシスに対するmRNA医薬の開発と脳内動態制御基盤	松田 純子	小児科	2,600,000	補委	AMED
ライソソーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における早期診断・早期治療を可能とする診療提供体制の確立に関する研究	松田 純子	小児科	320,000	補委	厚生労働省

小胞輸送病とライソゾーム病を包括する新しい疾患概念の確立と治療開発への基盤研究	大友 孝信	小児科	2,600,000	補 委	日本学術振興会
ライソゾーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における早期診断・早期治療を可能とする診療提供体制の確立に関する研究	大友 孝信	小児科	400,000	補 委	厚生労働省
遺伝性希少疾患ライソゾーム病の診断に用いられる新規バイオマーカーの開発	大友 孝信	小児科	4,950,000	補 委	AMED
HPV ワクチンの長期的効果およびキャッチアップ接種の有効性の評価のための大規模疫学研究	下屋 浩一郎	産婦人科	3,373,000	補 委	日本医療研究開発機構
腸内フローラと早期乳癌に対するペムプロリズマブ: 新規バイオマーカーと治療最適化	岩本 高行	乳腺甲状腺外科	4,680,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
乳がん患者の包括的 survivorship research	平成人	乳腺甲状腺外科	4,680,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
高齢がん患者における機能評価を含めた抗悪性腫瘍薬によるケモブレイン予測モデル開発	平成人	乳腺甲状腺外科	4,290,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
乳がん切除後疼痛症候群に対するスマートフォンによるアクセプタンス&コミットメント・セラピーの開発と有用性: 分散型臨床試験 基盤を用いた多施設共同 シャム対照二重盲検ランダム化並行群間比較試験	平成人	乳腺甲状腺外科	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
全身性強皮症の皮膚硬化におけるエピジェネティクス異常誘導機構の解明	浅野 澄恵	リウマチ・膠原病科	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
関節リウマチにおけるDNAメチル化ダイナミズムの解明とエピゲノム創薬に向けて	中野 和久	リウマチ・膠原病科	780,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
三次元動作解析装置を用いたパーキンソン病患者の呼吸運動に対する姿勢の影響の検討	花山 耕三	リハビリテーション科	3,770,000	補 委	文部科学省
高次脳機能障害者に対する自動車運転可否判断における予測精度低下機序の解明	平岡 崇	リハビリテーション科	4,680,000	補 委	文部科学省
抗腫瘍免疫能の向上を目指した近赤外線線型薬剤送達システムによる新規がん治療開発	仁科 惣治	消化器内科	6,370,000	補 委	文部科学省
血管内光刺激応答性ナノキャリアを用いた革新的がんDDS開発	仁科 惣治	消化器内科	2,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

“血管内光照射カテーテルデバイス”と“光応答型薬物送達システム”の技術融合による革新的がん治療開発	仁科 惣治	消化器内科	3,900,000	補 (委)	科学技術振興事業団
同種移植片としてのヒト小腸粘膜下組織の至適脱細胞化条件の探索	上野 富雄	消化器外科	1,170,000	(補) 委	日本学術振興会
胃癌周術期のサルコペニアの摂食嚥下障害の評価と、リハビリ介入による肺炎予防効果	遠藤 俊治	消化器外科	910,000	(補) 委	日本学術振興会
AIとイメージングでEMT型膵癌の機能を定量化しCRISPRで機能的RNAを狙う新規治療の探索	矢野 修也	消化器外科	1,430,000	(補) 委	日本学術振興会
人工知能で大腸癌のアナログ分類とデジタル分類を統合し新規標的治療薬を創造出来る基盤作り	矢野 修也	消化器外科	1,600,000	補 (委)	岡山県 (令和6年度特別電源所在県科学技術振興事業)
網膜色素上皮細胞のメラニン生成阻害による加齢黄斑変性のin vitroモデルの作製	鎌尾 浩行	眼科	3,120,000	(補) 委	文部科学省 日本学術振興会
乳幼児を対象とした視線計測装置による新たな視力検査法の開発	米田 剛	眼科	3,900,000	(補) 委	文部科学省 日本学術振興会
乳幼児を対象とした視線解析を用いた新たな自動視力検査装置の開発	米田 剛	眼科	4,420,000	(補) 委	文部科学省 日本学術振興会
乳幼児を対象とした視線視野解析システムの構築と視野正常発達の解明	藤原篤之	眼科	2,600,000	(補) 委	文部科学省 日本学術振興会
いびきの音響解析と酸化ストレスマーカーを用いた新しいOSA重症度診断法の開発	原 浩貴	耳鼻咽喉・頭頸部外科	4,550,000	(補) 委	科学研究費助成事業
周術期急性腎障害モデルの作成	戸田 雄一郎	麻酔・集中治療科	4,290,000	(補) 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
前立腺MRIの最適化:合成拡散強調像の臨床応用に向けた研究	玉田 勉	放射線診断科	4,550,000	(補) 委	文部科学省
先進的な糖代謝・酸素環境MRIによるびまん性肝疾患の病態解明と診断法の確立	福倉良彦	放射線診断科	4,550,000	(補) 委	文部科学省
CTとMRIによる膵癌の早期診断法の確立と癌リスク特定によるスクリーニングへの展開	福永健志	放射線診断科	4,550,000	(補) 委	文部科学省
4D flow MRIを用いた肝臓の線維化と門脈血行動態に関する非侵襲的評価	檜垣 篤	放射線診断科	4,420,000	(補) 委	文部科学省
逆向きトポロジーを持つCD38を標的とした造血器腫瘍の新規治療法開発	北中 明	中央検査部	1,700,000	(補) 委	日本学術振興会
脾臓摘出をしない赤血球膜異常症例のスクリーニング検査の確立	末盛 晋一郎	中央検査部	1,300,000	(補) 委	日本学術振興会

計 67 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Akihide Fujii , Tomohiro Oishi , Eisei Kondo 他	臨床感染症科	Efficacy of baloxavir marboxil as a prophylactic against influenza among in- patients and analysis of influenza virus mutations in their isolates at a Japanese hospital during the 2023-2024 flu season	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 45717(オンライ ン)	Original Article
2	Oishi T, Yasui Y, Kato A 他	臨床感染症科	Analysis of Cell Immunity for Children Infected with SARS- CoV-2 and Those Vaccinated against SARS-CoV-2 Using T-SPOT^{® }.COVID	Microorganisms, 45413, 12(5):975	Original Article
3	Teruyoshi Kume, Takeshi Nishi, Yoshinobu Murasato 他	循環器内科	Impact of stent strut link location in proximal balloon edge dilation technique for bifurcation percutaneous coronary intervention	Cardiovascular intervention and therapeutics, 45383, 39(2):137-144	Original Article
4	Hiroshi Okamoto, Takeshi Nishi, Kyo Kamisaka 他	循環器内科	Trends in the Clinical Characteristics and Outcome of Infective Endocarditis: A Nationwide Study From 2016 to 2021	Journal of the American Heart Association, 45658, 14(1):e037188	Original Article
5	Ikegami- Tanaka H, Yasokawa N, Kurose K 他	呼吸器内科	Analysis of the relationship between comorbid obstructive sleep apnea and clinical outcomes in patients with asthma in Japan.	Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology, 45474, 73(3):390-396	Original Article
6	Shimizu K, Nakata M, Saisho S 他	呼吸器外科	Predictive Value of PERCIST for Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Preoperative Induction Therapy - A Multicenter Study in Japan	Cancer Management and Research, 45474, 16:965- 976	Original Article

7	Maeda A, Nojima Y, Saisho S 他	呼吸器外科	A case of thoracoscopic repair for pleuroperitoneal communication in a patient undergoing continuous ambulatory peritoneal dialysis	Kawasaki Medical Journal、45717(オンライン)	Case report
8	Seiji Kishi , Takaya Nakashima , Tadahiro Goto 他	腎臓内科	Association of serum magnesium levels with renal prognosis in patients with chronic kidney disease	Clinical and experimental nephrology、45505、28(8):784-792	Original Article
9	Seiji Kishi	腎臓内科	Redefining glomerular hyperfiltration: pathophysiology, clinical implications, and novel perspectives	Hypertension research、45717、48(3):1176-1178	Review
10	Hajime Nagasu	腎臓内科	Multiple Effects of SGLT2 Inhibitors	JMA J、45566、7(4):580-581	Original Article
11	Masanobu Takasu , Seiji Kishi , Hajime Nagasu 他	腎臓内科	The Role of Mitochondria in Diabetic Kidney Disease and Potential Therapeutic Targets	Kidney Int Rep、45597、10(2):328-342	Review
12	Wada Y, Kidokoro K, Kondo M 他	腎臓内科	Evaluation of glomerular hemodynamic changes by sodium-glucose-transporter 2 inhibition in type 2 diabetic rats using in vivo imaging	Kidney international、45536、106(3):408-418	Original Article
13	Hirano A, Kadoya H, Takasu M 他	腎臓内科	Effects of Beraprost on Intestinal Microcirculation and Barrier Function in a Mouse Model of Renal Failure. inpress	Microcirculation (New York, N.Y. : 1994)、45597、31(8):	Original Article
14	Kishi S, Kadoya H, Kashihara N 他	腎臓内科	Treatment of chronic kidney disease in older populations	Nature Reviews Nephrolog、45536、20(9):586-602	Review
15	Masanobu Takasu, Seiji Kishi, Yuhei Kirita 他	腎臓内科	Investigating the effects of low-level and transient DNA damage on kidney health in a novel mouse model of aging	Nephrology Dialysis Transplantation、45413、38(Supplement_1):1228-2372	Review
16	Hirano A, Yamamoto T, Kadoya H 他	腎臓内科	Never give up! A case of weaning from 40 years of hemodialysis	Therapeutic Apheresis and Dialysis、45505、28(4):664-665	Case report

17	Eriko Kajimoto, Hajime Nagasu, Masanobu Takasu 他	腎臓内科	ASK-1 activation exacerbates kidney dysfunction via increment of glomerular permeability and accelerates cellular aging in diabetic kidney disease model mice	scientific reports, 45597, 14(1):	Original Article
18	Iwamoto Yuichiro, Kimura Tomohiko, Katakura Yukino 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Morphological Differences in the Abdominal Aorta Between Subjects With and Without Type 2 Diabetes	Cureus, 45536, 16(9):e68567	Original Article
19	Iwamoto Yuichiro, Kimura Tomohiko, Dan Kazunori 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparison of Magnetic Resonance Imaging Features Between Programmed Cell Death 1/Programmed Cell Death Ligand 1 Inhibitor-Induced Hypopituitarism and Idiopathic Hypopituitarism in Japanese Subjects	Cureus, 45566, 16(10):e71699.	Original Article
20	Iwamoto Yuichiro, Kimura Tomohiko, Shimoda Masashi 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	C-peptide index at 2 hour after meal is a useful predictor of endogenous insulin secretory capacity and withdrawal from insulin therapy in subjects with type 2 diabetes	Diabetes Obes Metab, 45474, 26(7):2761-2773	Original Article
21	Iwamoto Yuichiro, Kimura Tomohiko, Dan Kazunori 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor and sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor additively ameliorate hepatic steatosis through different mechanisms of action in high-fat diet-fed mice	Diabetes Obes Metab, 45444, 26(6):2339-2348	Original Article
22	Iwamoto Yuichiro, Kimura Tomohiko, Dan Kazunori 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Tirzepatide, a dual glucose-dependent insulinotropic polypeptide/glucagon-like peptide 1 receptor agonist, exhibits favourable effects on pancreatic β -cells and hepatic steatosis in obese type 2 diabetic db/db mice.	Diabetes Obes Metab., 45627, 26(12):5982-5994	Original Article

23	Iwamoto Hideyuki, Kimura Tomohiko, Fushimi Yoshiro 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Effectiveness of switching from dipeptidyl peptidase-4 inhibitor to oral glucagon-like peptide-1 receptor agonist in Japanese participants with type 2 diabetes mellitus: Prospective observational study using propensity score matching	Diabetes Obes. Metab, 45566, 26(10):4366-4374	Original Article
24	Iwamoto Yuichiro, Kimura Tomohiko, Itoh Takashi 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Clinical findings of acute necrotizing esophagitis complicated by diabetic ketoacidosis	Endocr J., 45413, 71(5):481-488	Original Article
25	Shimoda Masashi, Katakura Yukino, Mashiko Atsuko 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparison of protective effects of teneligliptin and luseogliflozin on pancreatic β -cell function: randomized, parallel-group, multicenter, open-label study (SECRETE-I study)	Front Endocrinol (Lausanne), 45566, 15:1412553	Original Article
26	Nakanishi Shuhei, Shimoda Masasjo, Kimura Tomohiko 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	The impact of grip strength, waist circumference, and body mass index on Hemoglobin A(1c) value: Cross-sectional study using outpatient clinical data in Japanese elderly patients with type 2 diabetes mellitus	Geriatr Gerontol Int., 45383, 24(4):410-414	Original Article
27	Yuichiro Iwamoto, Tomohiko Kimura, Hideyuki Iwamoto 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Nilotinib-induced Diabetes in Japanese Patients with Chronic Myeloid Leukemia.	Internal medicine (Tokyo, Japan), 45717, 64(6):817-823	Original Article
28	Nakanishi Shuhei, Shimoda Masashi, Kimura Tomohiko 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	The impact of handgrip strength and waist circumference on glycemic control: Prospective, observational study using outpatient clinical data in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus	J Diabetes Investig, 45474, 15(7):892-898	Original Article

29	Yuichiro IWAMOTO, Fuminori TATSUMI, Mana OHNISHI 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	A case of Sheehan syndrome with early postpartum panhypopituitarism and long-term partial improvement of endocrine function	Kawasaki Medical Journal, 45566, 50:55-62	Case report
30	Masato KUBO, Tomohiko KIMURA, Kaio TAKAHASHI 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Insulin administration to an abdominal insulin ball that triggered the onset of diabetic ketoacidosis accompanied by Hamman's syndrome in a patient with type 1 diabetes mellitus	Kawasaki Medical Journal, 45597, 50:69-72	Case report
31	Nakanishi Shuhei, Shimoda Masashi, Kimura Tomohiko 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	The Impact of Hand Strength on HbA1c, Body Mass Index and Body Composition by Group According to Sedentary Behaviour: Cross-Sectional Study in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus	Malays J Med Sci, 45444, 31(3):185-193	Original Article
32	Iwamoto Hideyuki, Sanada Junpei, Kimura Tomohiko 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Blocking mineralocorticoid signaling with esaxerenone reduces atherosclerosis in hyperglycemic ApoE KO mice without affecting blood pressure and glycolipid metabolism	Sci Rep, 45717, 15(1):10887	Original Article
33	Iwamoto Yuichiro, Kimura Tomohiko, Dan Kazunori 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Clinical outcomes of immune checkpoint inhibitor-induced endocrine and other disorders in Japanese patients	Scientific Reports, 45658, 15(1):390	Original Article
34	Naoki Oyama, Koichi Oki, Makoto Nakajima 他	脳卒中科	Impact of the COVID-19 Pandemic on Acute Stroke Rehabilitation in Japanese Primary Stroke Centers: A Nationwide Cross-Sectional Study Using a Web-based Questionnaire Survey.	European neurology, 45474、	Original Article
35	Miyazato S, Oyama N, Iwamoto T 他	脳卒中科	Temporal Changes in Cerebral Blood Flow During Migraine with Aura of Alternating Left and Right Homonymous Hemianopsia.	Internal Medicine, 45383, 1157-1162	Case report

36	Matsuzaki J, Oyama N, Miura H 他	脳卒中科	Incidental finding of aberrant left common carotid artery during intracerebral hemorrhage examination.	Radiol Case Rep, 45536、19(12):6429-6432	Case report
37	YAGI K, HIJIKATA Y, TAO Y 他	脳神経外科	Contralateral Progression after Unilateral Surgery for Bilateral Chronic Subdural Hematoma: A Prospective Observational Study	Neurologia medico-chirurgica, 45717、65:	Original Article
38	Kenji Yagi, Eiichiro Kanda, Yasukazu Hijikata 他	脳神経外科	Eosinophil-platelet ratio as a predictive marker of the postoperative recurrence of a chronic subdural hematoma	Neurosurgery, 45536、96(6) :1301-1306	Original Article
39	Yasui Y, Oishi T, Kato A 他	小児科	Evaluation of Virus Detection in Pediatric Patients Hospitalized with Respiratory Tract Infections Using Quantitative Multiplex PCR	Journal of Clinical Trials、45658(オンライン)	Original Article
40	Atsushi Kato, Ippei Miyata, Yoshitaka Nakamura 他	小児科	Maximum Diameter of Ileocecal Lymph Nodes Measured Using Abdominal Ultrasonography Allows for the Discrimination of Yersinia pseudotuberculosis Infection from Kawasaki Disease	The Pediatric Infectious Disease Journal, 45658、44(1):6-10	Original Article
41	Nakano T, Hasegawa M, Endo M 他	小児科	Immunogenicity and safety of adsorbed diphtheria-purified pertussis-tetanus-inactivated polio (Sabin strain)-Haemophilus type b conjugate combined vaccine (DPT-IPV-Hib) in healthy Japanese Infants ≥ 2 and < 43 months of Age: A phase III, multicenter, active controlled, assessor-blinded, randomized, parallel-group study	Vaccine, 45383、42(12):3134-3143	Original Article

42	Mika Sugihara, Kuniaki Ota, Toshifumi Takahashi 他	産婦人科	Conservative Management of Placenta Percreta With Perforation in an Infertile Lupus Patient Following Embryo Transfer: A Report of a Rare Case	Cureus, 45597, 16(11):e74774	Original Article
43	Ota Y, Ota K, Takahashi T 他	産婦人科	Case Report: The first case of successful pregnancy and live birth following laparoscopic resection of adenomyosis under real-time intraoperative ultrasound elastography guidance	Frontiers in Medicine, 45536, 2024 Sep 26(11):	Case report
44	Yoshiaki Ota, Kuniaki Ota, Toshifumi Takahashi 他	産婦人科	Innovative vaginal manipulator technique vs. traditional method for vaginal fornix deployment in robotic sacrocolpopexy	Frontiers in Surgery, 45597, 2024 Nov 7(11):	Original Article
45	Tasaka K, Ota Y, Ota K 他	産婦人科	A case of a blind-ending right ureter first identified intraoperatively during total laparoscopic hysterectomy for uterine adenomyosis and fibroids in a woman with severe ipsilateral kidney hypoplasia	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 45444, 2024 Aug(50):1415-1419	Original Article
46	Takayuki Iwamoto, Naoki Niikura, Kenichi Watanabe 他	乳腺甲状腺外科	Prognostic value of the 21-Gene Breast Recurrence Score® assay for hormone receptor-positive/human epidermal growth factor 2-negative advanced breast cancer: subanalysis from Japan Breast Cancer Research Group-M07 (FUTURE trial).	Breast cancer research and treatment, 45444, 208(2):253-262	Original Article

47	Shunichi Fujita, Hiroto Shimokawahara, Misaki Kanezawa 他	リウマチ科	Case Report: Effective Management of Pulmonary Hypertension Associated With Takayasu Arteritis Through Both Immunosuppressive Therapy and Serial Balloon Pulmonary Angioplasty	International Journal of Rheumatic Diseases、45689、Volume28、Issue2(February 2025):	Case report
48	Kazuhisa Nakano, Shunichi Fujita, Sumie Hiramatsu-Asano 他	リウマチ科	Clinical Significance of Antinuclear Antibodies in Patients with Rheumatoid Arthritis: From SETOUCHI-RA Registry	Journal of Clinical Medicine、45689(オンライン)	Original Article
49	Seiya Watanabe, Kazuo Nakanishi, Kazuya Uchino 他	整形外科	Investigation of the Usefulness of Implants With Locking Mechanisms for Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis (DISH)-Induced Thoracic and Lumbar Fractures in Patients Operated in the Prone Position.	Cureus、45505(オンライン)	Original Article
50	Seiya Watanabe, Kazuo Nakanishi, Kazuya Uchino 他	整形外科	Efficiency of Long Lateral Mass Screw in Posterior Cervical Fusion.	Cureus、45474(オンライン)	Original Article
51	Seiya Watanabe, Kazuo Nakanishi, Kazuya Uchino 他	整形外科	Pediatric Traumatic Cervical Distraction Injury: A Case Report.	Cureus、45444(オンライン)	Original Article
52	Seiya Watanabe, Kazuo Nakanishi, Ryo Sato 他	整形外科	Minimally Invasive Trans-sacral Canal Plasty for Lumbar Canal Stenosis.	Cureus、45413(オンライン)	Original Article
53	Seiya Watanabe, Kazuo Nakanishi, Masakatsu Mura 他	整形外科	Investigation of Radiation Exposure of Medical Staff During Lateral Fluoroscopy for Posterior Spinal Fusion Surgery.	Journal of clinical medicine、45280(オンライン)	Original Article
54	Seiya WATANABE, Kazuo NAKANISHI, Kazuya UCHINO 他	整形外科	Surgical intervention of dysphagia caused by Ossification of the Anterior Longitudinal Ligament	Kawasaki Medical Journal、45474(オンライン)	Original Article

55	Kazuo Nakanishi, Yasukazu Hijikata, Kazuya Uchino 他	整形外科	Predicting Skeletal-related Events Using SINS.	Spine、45597、49(22):E367-E371	Original Article
56	Seiya Watanabe, Kazuo Nakanishi, Yoshihisa Sugimoto 他	整形外科	Investigation of long lateral mass screw insertion torque.	Surgical neurology international、45413(オンライン)	Original Article
57	Nobuyuki Arai, Hiromasa Abe, Takashi Hiraoka 他	リハビリテーション科	A Case of Spinal Cavernous Hemangioma with Rapidly Worsening Neurological Symptoms after COVID-19 Infection	Progress in Rehabilitation Medicine、45505(オンライン)	Original Article
58	Kyo Sasaki, Yusuke Kawamura, Chikara Ogawa 他	消化器内科	Skill Proficiency, Efficacy, and Safety of the Transradial Approach in Transarterial Treatments for Hepatocellular Carcinoma	Cureus、45383、16(4):e57800.	Original Article
59	Shunji Endo, Masaharu Higashida, Yoshinori Fujiwara 他	消化器外科	Risk factors for postoperative pneumonia in older adults aged ≥ 80 years with gastric cancer	BMC cancer、45689(オンライン)	Original Article
60	Shunji Endo, Masaharu Higashida, Kei Furuya 他	消化器外科	Prognostic factors for gastric cancer patients aged ≥ 85 years	BMC cancer、45444(オンライン)	Original Article
61	Yoshinori Fujiwara, Shunji Endo, Masaharu Higashida 他	消化器外科	The seven-day cumulative post-esophagectomy inflammatory response predicts cancer recurrence	BMC surgery、45566(オンライン)	Original Article
62	Kou Kanesada, Kazuhiko Yoshimatsu, Yoshitomo Ito 他	消化器外科	Rare Case of Gut-associated Lymphoid Tissue Carcinoma in the Sigmoid Colon of a Very Elderly Patient: A Case Report	Journal of the Anus, Rectum and Colon、45658、9(1):156-161	Case report
63	Hiroyuki Kamao, Katsutoshi Goto, Tatsuhiro Ouchi 他	眼科	Treatment Outcomes of Simple and Complex Central Serous Chorioretinopathy.	Journal of Clinical Medicine、45689(オンライン)	Original Article

64	Hiroyuki Kamao, Katsutoshi Goto, Yuto Date 他	眼科	Clinical Characteristics of Punctate Hyperfluorescence Spots in the Fellow Eye of Patients with Unilateral Macular Neovascularization with No Drusen.	Journal of Clinical Medicine、45536(オンライン)	Original Article
65	Hiroyuki Kamao, Erika Mitsui, Yuto Date 他	眼科	Clinical characteristics of unilateral macular neovascularization patients with pachydrusen in the fellow eye.	Journal of clinical medicine.、45444(オンライン)	Original Article
66	Atsushi Higaki, Tsutomu Tamada, Ayumu Kido 他	放射線科(画像診断)	Short repetition time diffusion-weighted imaging improves visualization of prostate cancer	Japanese Journal of Radiology、45413、42(5):487-499	Original Article
67	Hiroki Nakamura, Akira Yamamoto, Hiroyuki Watanabe 他	放射線科(画像診断)	Microembolization effects of imipenem/cilastatin in vivo depicted by monochromatic synchrotron X-ray microangiography	Journal of vascular and interventional radiology : JVIR、45689、36(2):340-346	Original Article
68	Kawata Yujiro, Watanabe Kenta, Tokiya Ryoji 他	放射線科(治療)	Case of Radiation-Induced Angiosarcoma after Breast-Conserving Surgery with Hypofractionated Radiotherapy in a Japanese Patient.	Acta Medica Okayama、45627、78(6):453-458	Case report
69	Watanabe Kenta, Tokiya Ryoji, Kawata Yujirou 他	放射線科(治療)	Radiation-induced pleomorphic liposarcoma after hypofractionated radiotherapy following breast-conserving surgery: A case report and literature review.	Oncology Letters、45413(オンライン)	Case report
70	Yumi Matsuura, Tatsushi Shiomi, Yasuto Fujimoto 他	病院病理部	A case of spermatocytic tumor in the testis	Kawasaki Medical Journal、45717、51:13-16	Others
71	Tatsushi Shiomi, Yasuto Fujimoto, Yoshiyasu Umeda 他	病院病理部	A case of trichoblastic carcinoma admixed with histological features of trichoblastoma, trichoepithelioma, and basal cell carcinoma	Malays J Pathol、45627、46(3):453-456	Case report

72	Komi K, Fujita M, Manabe N 他	病院病理部	Contrast-enhanced ultrasonography combined with superb microvascular imaging for preoperative diagnosis of sporadic intra-abdominal desmoid-type fibromatosis: A case report	Radiology Case Reports, 45536, 19(9):3988-3993	Case report
73	Kanda E.	健康診断センター	Development of Artificial Intelligence Systems for Chronic Kidney Disease.	JMA., 45536, 2024(9):1	Original Article
74	Takeshi Yoda, Hiroki Hamada, Takafumi Aoki 他	健康診断センター	Dietary intervention outperforms fecal microbiota transplantation from exercised and/or lean donors in improving metabolic phenotypes of western diet-fed obese mice	Kawasaki Journal of Medical Welfare, 45536, 30(1):25-34	Original Article

計74件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会標準業務手順書では、適用範囲・義務・委員会委員の構成・委員会の業務・開催・審査に係る事項・記録の保存等を定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容： 利益相反マネジメントポリシーに基づき、利益相反マネジメントの定義、申告対象、推進体制、利益相反委員会の所掌事項、マネジメントの実施方法、教育研修、外部からの指摘への対応、業務関与者の秘密保持等について定め、別途申告基準を設けている。 ※前年度、規程の変更はないが、申告基準について追加あり（大学発ベンチャー 関連）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年92回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 回（通年） ※Webサイトによる e-learning
・ 研修の主な内容 ○人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針講習会 ○利益相反の自己申告について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

●内科（総合診療科）

地域の医療機関で診断及び対応が困難な症例に対して、臓器にとらわれない診療を行っている。また、高度救命救急センターに搬送された内科系救急疾患に対する診療も行っている。日本専門医機構が認定する総合診療専門研修プログラムによって地域で活躍する総合診療専門医を育成している。

●救急科

川崎医科大学附属病院高度救命救急センターでの初期、二次、三次救急全般に対する研修に加えて、ドクターヘリによる病院前救急診療研修を通じて、消防機関との連携についても研修を行う。また、高度救命救急センター内にある集中治療室および病棟において集中治療だけでなく、地域の医療機関との連携についても学ぶ。研修中には JATEC など当院で主催している各種コースを受講することで、基本的な知識、技能の向上をはかる。

●感染症内科（臨床感染症科）

感染症診療では、感染症の予防、診断、治療の大きく3つに分かれるが、臨床感染症科研修において、感染症の予防としては、「その感染予防策が必要な理由」を、診断については「感染症が原因か否か」および「感染症のフォーカスはどこか」について、治療については「なぜその抗菌薬を使用するか」にそれぞれ焦点を当て、実際の症例をもとに、どの診療科にも広く関与する「感染症分野」について、どの診療科での診療においても大きく役立つ研修を行う。

●腫瘍内科（臨床腫瘍科）

- ・ゲノム医療を加味したがん薬物療法の実践
- ・がん薬物療法、がんゲノム医療、包括的緩和医療の実践
- ・各領域のTranslational researchの立案・計画・実践
- ・難治性疼痛の包括的管理

●循環器内科

循環器内科では、年間 800 件程度のカテーテル検査と 220 件程度の経皮的冠動脈形成術を行っている。その他の特殊カテーテルによる冠動脈治療、不整脈に対するカテーテルアブレーション、閉塞性肥大型心筋症に対する PTMSA、径カテーテル弁膜症治療（PTMC、TAVI、M-TEER）など種々の治療手技を多く経験できる。

●呼吸器内科

1. 多くの症例を経験させ、呼吸器疾患の病態を理解し、診断、治療、経過の把握に必要な病歴、身体所見をとることができるよう指導している。
2. 呼吸器疾患の診断に必要な検査（胸部 X 線、胸部 CT、MRI、気管支造影、超音波検査、気管支内視鏡検査、呼吸機能検査、核医学検査、喀痰検査、胸腔穿刺、胸腔ビデオスコープ）を実践し、その意義と症例に応じた選択ができるよう指導している。
3. 定期的な他診療科（呼吸器外科、放射線科、病理部門）との合同カンファランスで、チーム医療を体験させかつ実践させている。

●胸部・心臓血管外科

一般病院では経験できない心臓血管外科の高度な診断、治療手技について研修を行っている。代表的なものとして以下の教育・研修を行っている。

- ・僧帽弁形成術について、複雑な病変にも対応できる高度な形成手術手技

- ・大動脈弁について、狭小弁輪など通常の弁置換手技では対応が難しい症例への特殊術式
- ・足関節周囲へのバイパスなど高度な技術を要する distal bypass 術の手術手技
- ・静脈機能検査などで、下肢静脈瘤術後の効果について客観的評価を行う検査手技
- ・周術期及び慢性期の抗血小板療法に関する知識と検査手技

●呼吸器外科

呼吸器外科専門医修練カリキュラムに準じて、呼吸器疾患の診断及び治療計画を立案し、自ら外科的治療と周術期管理を施行できることを目標とする。治療方針については、呼吸器内科医、腫瘍内科医、放射線科医などと定期的なカンファレンスを開催し、自症例を紹介するとともに討論に参加する。開胸術ならびに胸腔鏡手術の術者または第一助手として、多くの症例にあたり外科的技術の修練を行う。術後のフィードバックとして、放射線科医、病理医とカンファレンスを持ち、術前診断の問題点について討議を行う。

●腎臓内科

血液透析療法：当科には、病床 19 床の腎センターを併設しており、毎日午前午後 2 クール維持透析を施行している。プライミングから、穿刺、回収といった手技的なことはもちろんのこと、最適な透析提供のためのプランの立案を専門的に学習することが可能である。また、シャントトラブルも、当科で P T A（経皮的血管形成術）を行っており、PTA の手技習得も可能である。

腹膜透析療法：現在、腹膜透析外来に約 50 名の患者さんが通院している。腹膜透析導入後の定期的な外来を担当し、処方管理や合併症の対応なども習得できる。

●泌尿器科

泌尿器科領域の高度な医療として低侵襲性と良好な治療成績が期待できる腹腔鏡手術、さらに手術支援ロボットを用いた手術が従来の開腹手術に変わり多くの疾患で適応となり、普及している。日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会では安全な腹腔鏡手術を遂行できる術者の認定のための腹腔鏡手術技術認定制度および、泌尿器ロボット支援手術プロクター制度があり、2024 以来年現在、当科では腹腔鏡手術技術認定を 3 名が、泌尿器ロボット支援手術プロクター認定を 4 名が取得している。これらの医師を指導医として後進の育成のために手術指導を行い、研修を行っている。

●血液内科

血液専門医研修カリキュラムに沿って研修する。最終的には血液専門医試験に合格し、資格を得ることを目標とする。

●糖尿病・代謝・内分泌内科

- ・糖尿病・代謝・内分泌内科の診察、診断、治療についてカンファレンスを行って指導する。
- ・持続皮下グルコース測定（CGM）
- ・皮下インスリン持続静注療法（CSII）
- ・抗下垂体抗体の測定

●脳神経内科

良医育成支援センター等の定めた後期研修目標を達成するべく、指導医の指導のもと、病棟診療チームの一員として医療に従事する。

- ・電気生理カンファレンス：月曜日 15:30-16:30
- ・新患回診：金曜日 16:00-17:00
- ・抄読会：木曜日 8:00-8:30

●内科（脳卒中科）

- ・神経超音波検査（頸部血管超音波検査、経頭蓋ドプラ検査、経頭蓋カラー・ドプラ検査・経食道心臓超音波検査・下肢静脈超音波検査）を修得する。
- ・脳血管造影検査を修得する。
- ・超急性期脳梗塞に対する t-PA 静注療法と血管内治療のマネジメントができる。
- ・急性期脳卒中に対する内科的診療が実践できる。

●脳神経外科

脳神経外科の診察、診断、治療についてカンファレンスを行って指導した。
脳外科手術を手術室で実際に指導した。
病棟回診で患者の診察、治療について指導した。

●精神科（心療科）

当科においてはあらゆる種類の精神疾患の診療を経験することができる。大学病院精神科であることから、身体疾患合併症例に対しても他科と協力しつつ治療経験を積むことができる。緩和ケアチームに参加し緩和医療における精神科の役割を経験できる。研修中は、OJT (On the Job Training) や症例検討会、臨床講義、カンファレンスなどを通じて、診断、薬物療法、電気けいれん療法、精神療法、チーム医療、ソーシャルワークなどの精神科医としてのスキルを身につけていく。当科研修の特徴は、精神療法の研修が充実していることである。精神療法の根幹であり最も実践的である支持的精神療法を十分習得できるはもちろんのこと、力動的な精神療法（精神分析的な精神療法）や認知行動療法などの精神療法の体系的な研修も可能である。

●小児科

小児科研修に必要な幅広い疾患を経験できる。それぞれの領域（感染症、アレルギー、新生児、内分泌代謝、先天異常、循環器、神経、遺伝など）の指導者による研修を行っている。ほぼ毎年、小児科専門医を輩出している。

●小児外科

小児に対する外科手術、腹腔鏡手術及び胸腔鏡手術を多数行っており、充実した指導を行うことができる。

●産婦人科

- ・周産期医療及び胎児超音波検査、胎児治療に関する高度医療についての研修
- ・生殖医療に関する研修と専門医取得
- ・婦人科腫瘍における集学的治療の実践と婦人科腫瘍専門医取得
- ・産婦人科内視鏡手術の研修と内視鏡専門医取得を目指した研修
- ・女性ヘルスケアの研修と日本女性医学会専門医取得を目指した研修

●乳腺・内分泌外科（乳腺甲状腺外科）

乳腺疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患に対する高度な医療の研修を行う。具体的には、各領域の専門医の育成や難易度の高い手技等を研修できる環境を提供する。

●皮膚科

impression mold 法の実施マニュアルを作成し、研修指導を行い、フィードバックをしている。

●リウマチ科（リウマチ・膠原病科）

当科は、全身の臓器に病気が及ぶ膠原病を専門としている。対象臓器が一つに留まることはまずない。また、治療に用いるステロイド薬や免疫抑制薬により、様々な感染症や糖尿病など合併症に直面することもある。すなわち、心臓、呼吸器、消化器、血液、脳神経と多臓器の障害に対し、整形外科、皮膚科、感染症、免疫の知識をも総動員して診療に当たる必要がある。したがって、当科

では全身を診る事ができる総合的な診療能力の修得を研修目標の一番に挙げている。また同時に、最新の臨床免疫学の知識を理解することも可能である。

●整形外科

当院では安全・低侵襲・正確な手術を行えるよう努力している。安全面では脊髄手術の際に脊髄誘発電位測定をモニターしながら手術をしたり、人工関節手術の際に出来るだけ自己血貯血を行い、同種血輸血を回避している。低侵襲の面では脊椎に対しては小切開の脊椎固定手術を行ったり、内視鏡視下手術を行ったりしている。関節に対しては出来るだけ関節鏡を用いて手術を行っている。正確の面に対しては脊椎手術や関節手術に対してナビゲーションを用いた手術を行っている。正確な手術は安全な手術にもつながると考えている。

●形成・美容外科

形成外科医にとって、手術用顕微鏡を用いた血管吻合や神経縫合技術は非常に重要です。当科では、このようなマイクロサージャリーテクニックの習得を奨励し、初心者から無理なく練習ができるような施設を用意しています。また、臨床症例も豊富で、耳鼻咽喉科、乳腺外科、脳神経外科などの他科との協同手術による再建はもとより、切断指再接着、足趾移植、顔面神経麻痺の再建なども多く行っております。さらに、四肢リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合などスーパーマイクロサージャリーの技術を用いた新しい治療にも積極的に取り組んでいます。

●リハビリテーション科

特定機能病院リハビリテーション病棟を有し、質の高い回復期リハビリテーション医療を提供している。

装具や、脳卒中・脳性麻痺の痙縮に対してボツリヌス療法 of 専門外来に加え、高次脳機能障害の専門外来では県内外から紹介を受けた支援困難症例を多数診療している。また患者のみならず他医療機関からの相談にも応じている。

また、神経筋疾患や脳血管障害に対して、ロボット（ロボットスーツ HAL®、歩行練習支援ロボット ウェルウォーク®）を用いたリハビリテーションを行っている。

●消化器内科

1. カプセル内視鏡を含めた最先端の消化器内視鏡診療技術の習得
2. 食道内圧、胃十二指腸運動、大腸通過時間など消化管の運動機能の評価
3. 消化管癌の発生リスク評価
4. 炎症性腸疾患の診断と治療に関する最先端の診療
5. 肝臓グループでは肝がん局所療法（RFA、PEI）、動脈塞栓療法、動注化学療法、腹腔鏡検査
6. 胆膵グループでは乳頭切開術、砕石術、胆道・膵管ステント留置術、膵癌早期診断のための膵液細胞診、超音波内視鏡下微細穿刺針による腫瘍生検などを修得
7. 食道・胃静脈瘤治療の内視鏡的治療（EVL、EIS）修得

●消化器外科、外科

外科専門医 9 名・指導医 5 名、消化器外科専門医 8 名・指導医 7 名、食道外科専門医 1 名、大腸肛門病専門医 1 名・指導医 1 名、肝胆膵外科高度技能指導医 1 名、肝臓専門医 1 名、膵臓学会認定指導医 1 名、消化器病専門医 3 名・指導医 1 名、内視鏡外科技術認定医 2 名、消化器内視鏡指導医 1 名、外科周術期感染管理教育医 1 名、がん薬物療法専門医 1 名、がん治療認定医 6 名が在籍しており、それぞれの専門領域で専門医取得に必要な技能、知識を修得するための研修を行っている。

また、消化器外科学会専門医修練施設、日本食道学会食道外科専門医認定施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本膵臓学会認定指導施設、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医修練施設 B として、各専門領域での技能修得が可能である。

●眼科

当院における研修期間中には、眼科医としての臨床の基礎を、体系的に習得させることが可能である。さらに、希少疾患や難治性疾患の診療経験を提供できる体制を有している。また、後期研修医の希望に応じて、連携病院における研修を実施することも可能である。

●耳鼻咽喉・頭頸部外科

当科の領域は、耳、鼻、咽頭及び喉頭に及び、それぞれに機能があり、これを温存する治療が必要である。特に癌腫に関して化学療法や分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬の使用により、機能を温存することが可能であるが、高度な知識と経験が必要である。また保存的治療に抵抗する癌腫も多く、手術も不可欠なことがある。いずれの治療をおこなうにも専門的な知識を有する指導医が必要である。本院には治療に精通した医師が多数おり、研修医が高度な技術と知識を習得できるように指導している。

●歯科、歯科口腔外科

口腔外科疾患に対する診断を行い、歯科治療および口腔外科手術を行っている。また全身麻酔手術を含め、全身管理が必要な症例についても、積極的に治療を行っている。口腔外科学の専門的知識と経験を有する歯科医師の養成を目的として、臨床に重点を置いた研修と臨床研究に関する研修を行っている。

●麻酔科（麻酔・集中治療科）

- ・周術期患者の評価並びに手術中の呼吸循環管理を学ぶ。
- ・疼痛の評価及び管理の教育を行う。集中治療室での重症患者管理研修を行う。
- ・静脈確保、気道管理の実際について学ぶ。

●放射線科（放射線診断科）

画像診断に関しては多列（80列）CT装置、高磁場（3テスラ）MRI装置を有し、あらゆる診療科からのオーダーに対応、最適な画像の撮影や専門的な読影を行っている。そのため、各分野における専門的な研修が可能である。IVRは年間300件以上の血管または非血管IVRを行っており、専門的な治療戦略やIVR技術を学ぶことができる。また、放射線科医による24時間365日の読影およびIVR体制を整えているため、緊急症例に対応する能力を養うことができる。

●放射線科（放射線治療科）

外部照射においては、一般的な三次元原体照射に加え、定位放射線治療、強度変調放射線治療、全身照射などの特殊治療も実施しており、日常診療を通じてこれらの治療の研修が可能である。

●臨床検査科（中央検査部）

臨床検査は日本専門医機構が定めた19基本領域の1つであり、本院の研修では、臨床検査専門医として必要な知識と技能を習得可能である。この基本的知識と技能は、サブスペシャリティ領域で要求されるような極めて専門性の高いものではなく、3年間の研修で習得できる内容である。つまり臨床検査専門医のカリキュラムでは、臨床検査が適切に実施されることを検証できる医師であり、これらに対して必要な事項を習得するプログラムとしている。具体的には、臨床化学及び免疫化学、一般検査学、血液学、微生物学、輸血学、生理機能検査学、及び検査管理学等の分野について、検査の現場をローテーションしながら、実践的内容の把握と検査データの解釈、検査室マネジメントの基本を修得する。

●内視鏡・超音波センター

内視鏡に関しては該当診療各科において高度かつ安全な診療を実施しており、適宜研修指導を行っている。超音波も同様に最新機器を用いた高度の診断を実施しており、院内外から適宜研修者を受け入れ指導を行っている。

●病理診断科（病院病理部）

将来病理専門医を取得し、専門医を取得した後もサブスペシャリティを有するための研修指導を行っている。病理診断について言えば、各サブスペシャリティを有する指導医とともに標本の切り出しを行い、作成した標本を免疫組織化学的診断やISHの手法を用いて診断し、各種の癌取扱い規約に則した病理診断報告書の作成を行う。特に各サブスペシャリティを有する指導医全員による毎日の症例検討会の実施や頻回の臨床各科とのカンファレンスによって、病理診断の精度管理に努めている。また、ゲノム診療における病理診断に対しても積極的に取り組んでおり、日本病理学会が定める分子病理専門医の取得を推奨している。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	139人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和田 秀穂	総合診療科	部長	41年	
庵谷 千恵子	総合診療科	部長	20年	
椎野 泰和	救急科	部長	26年	
大石 智洋	感染症内科	部長	28年	臨床感染症科 小児科併任
永坂 岳司	臨床腫瘍科	部長	31年	
上村 史朗	循環器内科	部長	40年	
根石 陽二	循環器内科	部長	30年	
小賀 徹	呼吸器内科	部長	30年	
黒瀬 浩史	呼吸器内科	医長	19年	
畝 大	胸部・心臓血管外科	部長	24年	心臓血管外科
中田 昌男	呼吸器外科	部長	41年	
長洲 一	腎臓内科	副部長	22年	
小村 和正	泌尿器科	部長	20年	
近藤 英生	血液内科	部長	24年	
金藤 秀明	糖尿病・代謝・内分泌内科	部長	34年	
中西 修平	糖尿病・代謝・内分泌内科	副部長	24年	
下田 将司	糖尿病・代謝・内分泌内科	医長	22年	
木村 友彦	糖尿病・代謝・内分泌内科	医長	16年	
真田 淳平	糖尿病・代謝・内分泌内科	医長	12年	
三原 雅史	脳神経内科	部長	26年	
八木田 佳樹	内科	部長	29年	脳卒中科
菱川 朋人	脳神経外科	部長	27年	
石原 武士	精神科	部長	34年	心療科
栄徳 隆裕	小児科	部長	21年	

曹 英樹	小児外科	部長	32年	
下屋 浩一郎	産婦人科	部長	39年	
太田 啓明	産婦人科	部長	26年	
坪内 弘明	産婦人科	副部長	26年	
太田 邦明	産婦人科	副部長	23年	
杉原 弥香	産婦人科	医長	18年	
平 成人	乳腺・内分泌外科	部長	30年	乳腺甲状腺外科
青山 裕美	皮膚科	部長	35年	
中野 和久	リウマチ科	部長	28年	リウマチ・膠原病科
三谷 茂	整形外科	部長	37年	
難波 良文	整形外科	部長	31年	
山下 修二	形成外科・美容外科	部長	24年	
平岡 崇	リハビリテーション科	部長	29年	
塩谷 昭子	消化器内科	部長	38年	
吉田 司	消化器内科	部長	26年	
仁科 惣治	消化器内科	部長	22年	
松本 啓志	消化器内科	副部長	27年	
半田 修	消化器内科	副部長	30年	
吉岡 奈穂子	消化器内科	医長	23年	
河瀬 智哉	消化器内科	医長	21年	
大澤 元保	消化器内科	医長	17年	
森田 周子	消化器内科	医長	26年	
上野 富雄	消化器外科、外科	部長	35年	
藤原 由規	消化器外科、外科	部長	40年	
吉松 和彦	消化器外科、外科	部長	35年	
木村 修平	眼科	部長	25年	
三木 淳司	眼科	部長	33年	
原 浩貴	耳鼻咽喉・頭頸部外科	部長	36年	
向井 隆雄	歯科、歯科口腔外科	部長	25年	
高尾 香名	歯科、歯科口腔外科	医長	23年	
戸田 雄一郎	麻酔科	部長	31年	麻酔・集中治療科
前島 亨一郎	麻酔科	副部長	31年	麻酔・集中治療科
玉田 勉	放射線科	部長	32年	放射線診断科
勝井 邦彰	放射線科	部長	28年	放射線治療科
北中 明	臨床検査科	部長	35年	中央検査部
塩見 達志	病院病理部	部長	35年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数	別紙①のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数	別紙②のとおり
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数	

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

①医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況

対象	内容	期間	回数	参加人数
診療放射線技師	部門抄読会	1日	59回	486人
診療放射線技師	MRI安全講習会	1日	1回	42人
診療放射線技師	CT安全講習会	1日	1回	42人
診療放射線技師	放射線防護マネジメントシステム講習	1日	1回	42人
診療放射線技師	放射線安全管理講習会	1日	1回	3人
診療放射線技師	医療機関のための放射線安全講習会	1日	1回	1人
診療放射線技師	放射線取扱主任者定期講習	1日	1回	1人
診療放射線技師	放射線治療品質管理士講習会	1日	1回	3人
診療放射線技師	国公立大学病院医療技術関係職員研修（診療放射線技師）	5日	1回	1人
診療放射線技師	日本血管造影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構主催セミナー	1日	2回	2人
診療放射線技師	中放勉強会	1日	8回	155人
診療放射線技師	RTラボ	1日	13回	242人
診療放射線技師	画像診断管理認証施設の認定講習会（MRI安全性講習会）	1日	1回	1人
診療放射線技師	日本放射線技術学会 放射線治療セミナー	1日	2回	2人
診療放射線技師	診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会	2日	1回	1人
診療放射線技師	告示研修（実技研修）	1日	4回	12人
診療放射線技師	放射線被ばく管理に関するマネジメントシステム導入支援 基礎研修	3日	1回	2人
診療放射線技師	日本核医学専門技師認定機構 第1回 核医学治療セミナー	1日	1回	1人
診療放射線技師	日本心臓核医学会 地域別教育研修会	1日	1回	1人
診療放射線技師	医学物理士認定試験記述式問題対策講習会	1日	1回	1人
診療放射線技師	放射線治療品質管理保証講習会	1日	2回	3人
診療放射線技師	日本医学物理士会主催講習会	1日	3回	3人
診療放射線技師	画像誘導密封小線源治療導入のための実務講習会	1日	1回	2人
診療放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構 統一講習会	1日	1回	1人
診療放射線技師	移動型透視装置の新規導入研修	1日	1回	21人
診療放射線技師	血管造影X線診断装置の新規導入研修	1日	1回	8人
診療放射線技師	2023年度のDIA報告について	1日	1回	29人
診療放射線技師	中央放射線部院内勉強会の説明会	1日	1回	30人
診療放射線技師	RI規制法に係る放射線教育訓練	1日	17回	29人
診療放射線技師	放射線治療安全講習	1日	1回	29人
臨床検査技師	2024年度 検査部門 新入職員オリエンテーション（業務概要、ISO15189関連、院内感染対策、医療安全、労働安全衛生、個人情報、情報セキュリティ等）	3日	1回	4人
臨床検査技師	2024年度 復職者・異動者対象QMS関連説明会（品質管理者）	1日	2回	5人
臨床検査技師	2024年度診療報酬改定の概要ならびに検査室関連の点数について	WEB	1回	12人
臨床検査技師	富士レピオ社「PEG-MUM」勉強会	1日	1回	9人
臨床検査技師	岡山感染症セミナー AMR対策と腸内細菌	1日	1回	7人
臨床検査技師	2024年JAB S03審査 指摘事項関連勉強会 不確かさおよび測定不確かさの違い	1日	1回	74人
臨床検査技師	2024年JAB S04審査 指摘事項関連勉強会 QMS関連	1日	1回	93人
臨床検査技師	アボット社 内部監査員養成セミナー	1日	1回	19人
臨床検査技師	アボット社 ISO 15189新規格移行に伴う差分セミナー	1日	1回	58人
臨床検査技師	2024年度 危機管理訓練 患者・負傷者の搬送訓練	1日	1回	38人
臨床検査技師	2024年度 危険物、廃棄物管理、労働安全衛生に関する勉強会	1日	1回	85人
臨床検査技師	2024年度 コミュニケーションスキルに関する勉強会	WEB	1回	85人
臨床検査技師	2024年度 日当直業務に関する研修（交差適合試験目合わせ）	1日	1回	42人
臨床検査技師	2024年度 日当直業務に関する研修（髄液細胞目合わせ）	1日	1回	50人
臨床検査技師	2024年度 日当直業務に関する研修（尿沈渣目合わせ）	1日	1回	50人
臨床検査技師	2023年度 業務に関する研修（採血室：出血時間）	1日	1回	7人
臨床検査技師	2024年度 業務に関する研修（循呼：ECG、心エコー、肺機能）	1日	1回	9人
臨床検査技師	2025年度 業務に関する研修（循呼 技能：ECG、心エコー、肺機能）	1日	1回	10人
臨床検査技師	2025年度 業務に関する研修（微生物：グラム染色）	1日	1回	6人
臨床検査技師	2025年度 業務に関する研修（輸血：凝集反応）	1日	1回	5人
臨床検査技師	2025年度 業務に関する研修（一般：尿定性、便検査、髄液他）	1日	1回	5人
臨床検査技師	2025年度 業務に関する研修（血液：細胞形態）	1日	1回	5人
臨床検査技師	2023年度 業務に関する研修（血液：アボット血液形態カフアレス）	1日	1回	4人
臨床検査技師	2024年度 中央検査部 RCPC	1日	10回	288人
薬剤師	日本病院薬剤師会「医薬品安全管理責任者等講習会」	1日	1回	9人
薬剤師	日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修「継続」	1日	1回	1人
薬剤師	2024年度公認スポーツファーマシスト認定プログラム	1日	1回	1人
薬剤師	第34回日本医療薬学会年会（オンデマンド配信含む）	3日	1回	4人
薬剤師	2024年度がん専門薬剤師集中教育講座	1日	1回	4人
薬剤師	2024年 第2回専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義	1日	1回	4人
薬剤師	令和6年度感染制御専門薬剤師講習会	1日	1回	1人
薬剤師	がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会	1日	1回	4人
薬剤師	第39回日本臨床栄養代謝学会各術集会	2日	1回	5人
薬剤師	第7回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum	7日	1回	3人
薬剤師	第72回日本化学療法学会総会・第98回日本感染症学会学術講演会 合同学会	3日	1回	2人
薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会 スタートアップセミナー	1日	1回	5人
薬剤師	第17回日本緩和医療薬学会年会	1日	1回	2人

対象	内容	期間	回数	参加人数
薬剤師	第17回周術期管理チームセミナー	1日	1回	1人
薬剤師	日本麻酔科学会セミナー	1日	1回	1人
薬剤師	令和6年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会	1日	1回	1人
薬剤師	第63回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	2日	1回	11人
薬剤師	令和6年度国公立大学病院医療技術関連職員研修(薬剤部職員)	2日	1回	1人
薬剤師	令和6年度 病院診療所薬剤師研修会	1日	1回	3人
薬剤師	第51回日本小児臨床薬理学会学術集会に参加	1日	1回	1人
薬剤師	第43回薬剤師のための抗HIV薬服薬指導研修会	1日	1回	1人
薬剤師	令和6年度包括的HIVカウンセリング研修会参加	1日	1回	1人
薬剤師	卒後教育研修会(岡山県病院薬剤師会主催)	1日	1回	5人
薬剤師	がん免疫薬物療法マネジメントセミナー	1日	1回	1人
薬剤師	令和6年度 薬剤師実務者研修会	2日	1回	1人
薬剤師	MRSAフォーラム2024	2日	1回	1人
薬剤師	第74回日本東洋医学会学術総会	3日	1回	1人
薬剤師	第40回日本栄養治療学会学術集会(オンデマンド配信参加)	1日	1回	1人
薬剤師	第10回日本医薬品安全性学会学術大会	3日	1回	1人
薬剤師	令和6年度中国ブロック災害医療スキルアップ研修会	1日	1回	1人
薬剤師	慢性腎臓病(CKD) オンライン研修会Aコース	1日	1回	2人
薬剤師	慢性腎臓病(CKD) オンライン研修会Bコース	1日	1回	1人
薬剤師	令和6年度おやかまDMAT養成研修	1日	1回	2人
療法士	リハビリセンター業務規定説明/注意事項	1日	1回	5人
療法士	身だしなみ・接遇・服装・電話対応・基本行動について	1日	1回	5人
療法士	電子カルテ(電子カルテ使用方法、使用上注意事項)	1日	1回	5人
療法士	医療安全管理について(医療安全管理・ルート抜去・転落転倒などDIA報告と対応)	1日	1回	5人
療法士	感染対策について	1日	1回	3人
療法士	医療安全DAI報告作成について	1回	1回	5人
療法士	嘔吐物処理講習会	1回	1回	5人
療法士	急変時の対応について(動画視聴)	1日	1回	3人
療法士	エビネット対応(針刺し、切創報告、患者の行方不明時の対応)	1日	1回	10人
療法士	ICU・SCU・心リハ・特リハの業務説明	1日	1回	3人
療法士	診療報酬関連勉強会(動画視聴)	1日	1回	80名
療法士	吸引講習会(吸引手順・注意事項)	1日	1回	5人
療法士	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いについて	1日	1回	5人
療法士	高次脳機能評価実技(新人PT/OT/ST対象)	1日	8回	3人
療法士	ドライブシュミレーターについて	1日	1回	3人
療法士	リハビリテーション科医局について(医師の仕事説明)	1日	1回	3人
療法士	急変時対応について(動画視聴)	1日	1回	142人
療法士	リスク管理勉強会(転倒・転落 動画視聴)	1日	1回	139人
療法士	物理療法について(禁忌と使用方法)	1日	1回	3人
療法士	FIM講習会DVD視聴(総論・移乗移動)	1日	1回	3人
療法士	FIM講習会DVD視聴(セルフケア)	1日	1回	3人
療法士	FIM講習会DVD視聴(認知)	1日	1回	3人
療法士	特定機能病院リハビリテーション病棟多職種見学	1日	1回	3人
療法士	酸素療法講習会	1日	2回	40人
療法士	寄り添いロボット(転倒予防)勉強会	1日	1回	26人
療法士	リハビリテーションセンター災害研修	1日	1回	57人
療法士	もやもや病勉強会	1日	1回	43人
療法士	第1回神経内科合同リハビリカンファレンス	1日	1回	20人
療法士	第2回神経内科合同リハビリカンファレンス	1日	1回	16人
療法士	第3回神経内科合同リハビリカンファレンス	1日	1回	47人
療法士・看護師	特リハ病棟合同新人職員研修(車椅子・装具)	1日	1回	8人
療法士・看護師	特リハ病棟合同新人職員研修(歩行)	1日	1回	8人
療法士・看護師	特リハ病棟合同新人職員研修(自助具)	1日	2回	8人
療法士・看護師	特リハ病棟合同新人職員研修(摂食嚥下)	1日	2回	8人
療法士・看護師	カフェアシスト勉強会	1日	1回	37人
療法士・看護師	骨粗鬆症勉強会	1日	1回	81人
療法士・看護師	介助方法実技講習会	1日	1回	8人
管理栄養士	診療報酬改定について	1日	1回	21人
管理栄養士	栄養部の決まりごと、アレルギー等について	1日	1回	25人
管理栄養士	栄養診断・PESの記載方法	1日	1回	23人
管理栄養士	カーボカウントについて	1日	1回	20人
管理栄養士	ネフローゼ症候群の栄養管理	1日	1回	20人
管理栄養士	栄養管理計画書の作成について	1日	1回	19人
管理栄養士	小児・思春期1型糖尿病の栄養管理	1日	1回	20人
管理栄養士	頭頸部癌患者の栄養管理	1日	1回	20人
管理栄養士	下腿切断の栄養管理	1日	1回	22人
管理栄養士	心筋梗塞の栄養管理	1日	1回	20人
管理栄養士	妊娠糖尿病患者の栄養管理	1日	1回	21人
管理栄養士	血液透析導入時の栄養管理	1日	1回	20人
管理栄養士	糖尿病患者の栄養管理	1日	1回	19人

対象	内容	期間	回数	参加人数
管理栄養士	日本料理、食品衛生	1日	1回	2人
管理栄養士	患者さんが興味をひく栄養指導媒体	1日	1回	2人
管理栄養士	糖尿病、高齢者の栄養管理	1日	1回	1人
管理栄養士	肺がん患者の栄養管理	1日	1回	7人
管理栄養士	GLIM時代のNSTを再考する～NST座談会～	1日	1回	4人
管理栄養士	栄養管理	2日	1回	1人
管理栄養士	管理栄養士のためのGLIM基準の活用方法	1日	1回	3人
管理栄養士	第8回IMJ学術総会 統合医療と漢方、その考え方	1日	1回	1人
管理栄養士	第9回栄養管理研修会	2日	1回	1人
管理栄養士	第27回小児医療研究会 子供の事故、アレルギー等の対応	1日	1回	2人
管理栄養士	第16回栄養治療学会中国四国支部会 個別化栄養管理	1日	1回	10人
管理栄養士	第13回栄養教育学学会 栄養学教育分野に、おけるプロフェッショナルリズムー何を教えるのか	1日	1回	1人
管理栄養士	第40回栄養治療学会 栄養治療の船出	2日	1回	5人
管理栄養士	第28回病態栄養学会 病態栄養の深化と広がり	3日	1回	6人
管理栄養士	第34回腎と妊娠研究会 高度肥満患者の栄養管理	1日	1回	2人
看護職員	急変時の対応	2日	2回	45人
看護職員	一次救命処置(BLS)	15日	15回	313人
看護職員	気管内挿管看護	6日	6回	28人
看護職員	フィジカルアセスメントと看護	4日	4回	224人
看護職員	DC/人工呼吸・NPPV・NHF管理中の看護	1日	1回	100人
看護職員	臨床推論	4日	4回	162人
看護職員	心不全看護勉強会	2日	2回	43人
看護職員	新生児蘇生法(専門コース)	5日	5回	32人
看護職員	分娩に関わる勉強会	3日	3回	61人
看護職員	鎮痛・鎮静・せん妄管理と看護	1日	1回	20人
看護職員	認知症者へのケア	6日	6回	182人
看護職員	オレンジケアナース研修会	5日	5回	132人
看護職員	高次脳機能評価	1日	1回	10人
看護職員	身体拘束軽減のための知識	4日	4回	60人
看護職員	ストーマ勉強会	2日	2回	35人
看護職員	褥瘡ケア	1日	1回	5人
看護職員	スキンケア	3日	3回	53人
看護職員	看護理論と実践	1日	1回	5人
看護職員	看護倫理継続教育	113日	113回	874人
看護職員	がん看護(ホリスティック)	5日	5回	88人
看護職員	緩和ケア(がん性疼痛)	1日	1回	24名
看護職員	緩和ケア(呼吸・消化器症状)	1日	1回	20名
看護職員	がん薬物療法看護	1日	1回	15人
看護職員	ICI学習会	5日	5回	510人
看護職員	がん放射線治療看護	1日	1回	22人
臨床工学技士	研修医対象研修会人工呼吸器	1日	1回	4人
臨床工学技士	研修医対象研修会除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ	1日	1回	4人
臨床工学技士	重症患者の搬送について	1日	1回	26人
臨床工学技士	消化器内視鏡スコープ一般について	1日	1回	1人
臨床工学技士	人工呼吸器SLE5000	2日	2回	11人
臨床工学技士	一酸化炭素ガス管理システムINoflo DS	1日	1回	8人
臨床工学技士	人工呼吸器サーボn	2日	2回	7人
臨床工学技士	治療用電気手術器エルベVIO3	1日	1回	3人
臨床工学技士	治療用電気手術器ZERUK-S	1日	1回	10人
臨床工学技士	ペースメーカー勉強会	1日	1回	17人
臨床工学技士	人工呼吸器ASTRAL	1日	1回	7人
臨床工学技士	ペースメーカーMICRA AV	1日	1回	18人
臨床工学技士	第6回川崎学園MEセンター学術集会	1日	1回	27人
臨床工学技士	エチレンオキサイドガスについて	1日	1回	2人
臨床工学技士	低圧持続吸引器メラサキューム	1日	1回	4人
臨床工学技士	医療機器安全オリエンテーション	1日	1回	4人
臨床工学技士	治療用電気手術器サージマックス	1日	1回	13人
臨床工学技士	治療用電気手術器MalisBipolar	1日	1回	7人
臨床工学技士	補助循環用バルーンポンプ駆動装置ZUIRYU	1日	1回	10人
臨床工学技士	汎用超音波画像診断装置Aplioi700	1日	1回	6人
臨床工学技士	外科用内視鏡システムVISERA ELITE III	1日	1回	12人
臨床工学技士	医療用吸引器 エンドマットSELECT II	1日	1回	10人
臨床工学技士	人工呼吸器HAMILTON-C6	2日	2回	23人
臨床工学技士	治療用電気手術器ZERUK-S	2日	2回	18人
臨床工学技士	在宅自己腹膜灌流における遠隔モニタリングシステムテルモPD マイケア	1日	1回	6人
臨床工学技士	在宅自己腹膜灌流におけるモニタリングシステムMyPD	1日	1回	10人
臨床工学技士	超音波血流計MiraQ	1日	1回	5人
臨床工学技士	輸液ポンプTE-LM835A テルフェュージョン輸液ポンプLM型	1日	1回	7人
臨床工学技士	手術用ナビゲーションユニットORTOMA	1日	1回	6人

対象	内容	期間	回数	参加人数
臨床工学技士	汎用人工呼吸器Vivo45	1日	1回	7人
臨床工学技士	排痰補助装置NIPPYクリアウェイ2	2日	2日	31人
臨床工学技士	植込み型心電図記録計Assert-IQ	1日	1回	11人
臨床工学技士	人工呼吸器NIPネーザル	1日	1回	6人
臨床工学技士	持続緩徐式血液濾過器セブザイリス	2日	2回	32人
臨床工学技士	超音波診断装置ARIETTA 65	1日	1回	3人
臨床工学技士	内視鏡用カメラZEOSカメラシステム	1日	1回	5人
臨床工学技士	成人用人工呼吸器ART-70	1日	1回	10人
臨床工学技士	内視鏡ビデオ画像プロセッサZEONカメラシステム	1日	1回	5人
臨床工学技士	間欠式空気圧式マッサージ器アイフロー2	1日	1回	7人
臨床工学技士	炭酸ガスレーザーニークレーザー15ZM	1日	1回	6人
臨床工学技士	全静脈麻酔支援シリンジポンプ制御ソフトウェアAsis TIVA	1日	1回	15人

②業務の管理に関する研修の実施状況
2024年度 職員教育講演会開催状況

様式4-2 別紙②

※WEB・DVD受講

	開催年月日	演 題	備 考	主 催 等	出席者数等
第1回	2024.5 WEB動画5/20 ～6/15	①知ってトクする認知症ケア ～せん妄と身体拘束について～ ②放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全利用	当院 ①1)認知症ケアチーム 看護副主任(認知症看護認定看護師) 上原 和也 2)認知症ケアチーム 看護副主任(精神科認定看護師) 中山 愛子 ②放射線診断科 副部長 山本 亮	職員教育委員会 認知症疾患医療センター運営委員会 診療用放射線安全管理委員会	2209 WEB動画又は DVD個別視聴
第2回	2024.6 WEB動画6/10 ～7/6	①当院における薬剤耐性菌対策 1)当院における抗菌薬使用状況について 2)当院における薬剤耐性菌の検出状況について 3)当院における環境整備、手指衛生について ②個人情報保護についての動向と当院での取り組み	当院 ① 1)感染管理室 室長 大石 智洋 2)感染管理室 感染管理者 吉岡 大介 3)感染管理室 専従看護師 大取 俊絵 ②個人情報保護委員会 委員長 金藤 秀明	職員教育委員会 院内感染対策委員会 個人情報保護委員会	2195 WEB動画又は DVD個別視聴
第3回	2024.7 WEB動画7/8 ～8/3	①医療ガスの安全管理 ②サービス向上委員会の活動について ③排尿ケアの質向上を目指して～排尿ケアチームの活動について～	当院 ①医療ガス・安全管理委員会 委員長 戸田 雄一郎 ②サービス向上委員会 委員 西村 広健 ③脳神経センター外来 看護副主任 繁永 美栄子	職員教育委員会 医療ガス安全管理委員会 サービス向上委員会 看護部(排尿ケア)	2188 WEB動画又は DVD個別視聴
第4回	2024.8 WEB動画8/5 ～8/31	①医療現場に必要な心理的安全性とは ②適正保険診療について	当院 ①株式会社ZENTech取締役 石井 遼介 ②適正保険医療委員会 委員長 金藤 秀明	職員教育委員会 病院医療安全管理委員会 適正保険医療委員会	2172 WEB動画又は DVD個別視聴
第5回	2024.9 WEB動画9/17 ～10/12	①医療安全管理室の活動 ②NSTの活動と現状、将来展望	①医療安全管理室 看護副部長 兼光 洋子 ②NST推進委員会 委員長 藤原 由規	職員教育委員会 病院医療安全管理委員会 NST推進委員会	2173 WEB動画又は DVD個別視聴
第6回	2024.10 WEB動画10/15 ～11/9	①当院の褥瘡の動向と褥瘡対策の評価 ②職場でのハラスメントの防止に向けて ③情報セキュリティ研修	当院 ①褥瘡対策室 看護主任 貝川 恵子 ②ハラスメント防止委員会 委員長 曹 英樹 ③医療情報システム安全管理者 上村 史朗	職員教育委員会 褥瘡対策委員会 ハラスメント防止委員会 医療情報システム管理委員会	1824 WEB動画又は DVD個別視聴
第7回	2024.11 WEB動画11/11 ～12/7	①転倒転落による傷害の防止 ②医療倫理コンサルテーションカンファレンス	①医療安全管理室 看護副部長 兼光 洋子 ②医療倫理コンサルテーションカンファレンスチーム 看護副部長 加藤 公美	職員教育委員会 病院医療安全管理委員会 医療倫理委員会	2152 WEB動画又は DVD個別視聴
第8回	2024.12 WEB動画12/9 ～1/11	①1)ワクチンについて 2)院内感染対策の重要性～COVID-19を経験して～ 3)当院における抗菌薬使用状況について ②当院の輸血医療における問題点	当院 ① 1)感染管理室 室長 大石 智洋 2)感染管理室 専従医師 吉岡 大介 3)感染管理室 専任薬剤師 藤井 哲英 ②輸血療法適正使用委員会 委員長 近藤 英生	職員教育委員会 院内感染対策委員会 輸血療法適正使用委員会	2122 WEB動画又は DVD個別視聴
第9回	2025.1 WEB動画1/27 ～2/22	①災害安全対策に関する職員教育講演会	当院 ①災害安全対策委員会 委員長 井上 貴博	職員教育委員会 災害安全対策委員会	1762 WEB動画又は DVD個別視聴
第10回	2025.2 WEB動画2/25 ～3/22	①医薬品の安全使用に向けて～医薬品安全管理委員会活動報告2024～ ②2024年度当院における医療機器の安全管理体制 ～特定機能病院として研修義務のある医療機器を中心に～	当院 ①医薬品安全管理委員会 委員長 曹 英樹 ②医療機器安全管理委員会 委員長、MEセンター長 戸田 雄一郎	職員教育委員会 医薬品安全管理委員会 医療機器安全管理委員会	2112 WEB動画又は DVD個別視聴
第11回	2025.3 WEB動画3/17 ～4/12	①適正保険について ②がん対策の目的・意義 ③二次性骨折予防について	当院 ①適正保険医療委員会 委員長 金藤 秀明 ②がんセンター運営委員会 委員長 上野 富雄 ③整形外科 医長 大成 和寛	職員教育委員会 適正保険医療委員会 がんセンター運営委員会 整形外科	1618 WEB動画又は DVD個別視聴

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 永井 敦	
管理担当者氏名	病院事務部長 守田 光宏	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療資料部
		各科診療日誌	医療資料部
		処方せん	医療資料部
		手術記録	医療資料部
		看護記録	医療資料部
		検査所見記録	医療資料部
		エックス線写真	医療資料部
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療資料部
			診療情報は、電子カルテに保存。 X線フィルムは、PACSに保存。 (2009. 12. 31以前は、紙媒体、X線フィルム現物で保存) 「診療情報を持ち出す際の取扱い」 診療情報の院外持ち出しは、原則禁止。管理部門以外のカルテ端末からはデータ抽出ができないようシステム制御を行っている。個人情報を除く診療情報の出力は、データ管理と廃棄の申請・誓約書を提出の上、パスワード付暗号化データにして渡す運用を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課
		高度の医療の提供の実績	病院事務部医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事務部医事課
		高度の医療の研修の実績	病院事務部病院庶務課
		閲覧実績	病院事務部病院庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部医事課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部医事課 薬剤部	
掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 病院事務部病院庶務課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 病院事務部病院庶務課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室 病院事務部病院庶務課
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室 病院事務部病院庶務課
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 病院事務部病院庶務課
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 MEセンター
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	病院事務部病院庶務課 感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療資料部
		医療安全管理部門の設置状況	病院事務部病院庶務課 医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室 高難度新規医療技術評価室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室 未承認新規医薬品評価室 未承認新規医療機器評価室
		監査委員会の設置状況	病院事務部病院庶務課 医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者診療支援センター 「患者相談窓口」
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	病院事務部病院庶務課 医療安全管理室
		職員研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 医療安全管理室
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室		
管理者が有する権限に関する状況	総務部総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務部総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 守田 光宏
閲覧担当者氏名	病院庶務課長 足立 季久 医事課長 池田 和晃
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課(応接室)
閲覧の手続の概要 ・閲覧請求を受けた場合、諸記録閲覧申請書類に所定事項(請求者の氏名、住所、連絡先等の情報、閲覧を希望する記録、閲覧の目的等)を記入いただく。 ・病院長決裁のうえ、閲覧に供する諸記録を準備する。 ・閲覧に供する諸記録の準備が整ったら、閲覧請求者に連絡し、閲覧日時を決め、上記閲覧の求めに応じる場所にて閲覧に供する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 0 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 川崎医科大学附属病院における医療安全管理に関する基本的な考え安全管理体制教育、報告と改善策の立案等の基準となる事項を定め、解説して医療安全への取り組み明らかにするものの目的・重要性を明らかにするものである。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 58 回 ・ 活動の主な内容： 川崎医科大学附属病院は院内の取り組みを統括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置している。その下部組織として「リスクマネージャー連絡会」を位置付けている。すなわち、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図っている。また、医療事故の発生事例に対処する「医療安全調査委員会」「医療事故調査委員会」「病院医療委員会」を設置している。</p> <p>(1) 病院医療安全管理委員会：21回開催 病院全体の立場から医療安全に関する諸事項を検討して決定する機関であり、以下の活動を行っている。医療安全問題に関する現状の把握と院内情報公開に関すること。医療事故発生防止と対策に関すること。安全医療を提供するためのマニュアルに関すること、医療安全管理に関する教育、研修と啓発活動に関すること。啓発活動としてニューズレターの発行、医療安全推進週間のポスター等の作成。</p> <p>(2) リスクマネージャー連絡会：12回開催 病院医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発している。6つのワーキンググループを形成して定期的に会議（月1～2回）を行い、インシデント報告書のレビューを行う。インシデント報告内容については定期的にデータを評価する。再調査が必要な事例や、ニューズレターの原稿作成の基となる情報や職員への通達、啓発が必要な事項があれば各ワーキンググループから委員会議事録をもって医療安全委員会に要望・進言をする。ワーキンググループは医療安全パトロールを実施し、年1回ワーキング活動の検証を行う。</p> <p>(3) 病院医療委員会：2回開催 医療事故発生への対処を適切かつ円滑に実施するために病院運営委員会の小委員会で対処方法に関する事項を審議する。</p> <p>(4) 医療安全調査委員会：5回開催</p> <p>(5) 医療事故調査委員会：0回開催</p> <p>(6) 医薬品安全管理委員会：12回開催</p> <p>(7) 医療機器安全管理委員会：6回開催</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回

・ 研修の内容（すべて）：

1. 2024年度第4回職員教育講演会（医療安全管理）

Web視聴期間2024年8月5日（月）～8月31日（土）予定 10月8日まで

演題・講師：

- 1) 医療現場に必要な心理的安全性とは
株式会社ZENTech取締役 石井 遼介
- 2) 適正保険医療について
適正保険医療委員会 委員長 金藤 秀明
(e-Learning・ナーシングスキル2,172名視聴・対象外2名視聴 合計2,174名)
※今回DVD貸出なし

2. 第5回職員教育講演会（医療安全管理）

Web視聴期間2024年9月17日（火）～10月12日（土）予定 11月26日まで

演題・講師：

- 1) 医療安全管理室の活動
医療安全管理室 看護副部長 兼光 洋子
- 2) NSTの活動と現状、将来展望
NST推進委員会 委員長 藤原 由規
(e-Learning・ナーシングスキル・DVD個別視聴2,173名、対象外3名視聴
合計2,176名)

3. 第7回職員教育講演会（医療安全管理）

Web視聴期間：2024年11月11日（月）～12月7日（土）予定 2025年1月14日まで

演題・講師：

- 1) 転倒・転落による傷害の防止
医療安全管理室 看護副部長 兼光 洋子
- 2) 医療倫理コンサルテーション
看護部 看護副部長 加藤 公美
(e-Learning・ナーシングスキル・DVD個別視聴2,152名、対象外4名視聴
合計2,156名)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. ニュースレターによる情報の提供・広報・啓発活動
(1回/月、状況に応じて臨時発行) (第1号から12号)
2. インシデント・アクシデント再発防止のための研修の実施
3. リスクマネージャーワーキンググループ活動・医療安全パトロールからの情報・アクシデントの分析から対策案等をマニュアル化して医療安全マニュアルに追加する

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策の基本的な考え方、院内感染対策委員会とその基本事項、従業員に対する研修に関する基本方針、感染症発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時に関する基本方針、患者等に対する当該指針の閲覧・その他院内感染対策推進・院内感染対策マニュアルに関する必要な基本方針について記載している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 45 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策委員会：12回開催 職種横断的に委員がおり、感染管理室の活動状況、ICTの活動、各種耐性菌・新興及び再興感染症の発生・予防状況、抗菌薬使用状況、問題のある諸事項等が報告され、協議検討されている。</p> <p>(2) ICS：12回開催 ICSの活動に参加している医師6名、看護師8名、その他メディカルスタッフ12名で構成されたチームで、ICSラウンドのフィードバックの共有をし、ICSラウンドや院内感染対策委員会・各ワーキング等で上がった問題点の協議検討を行っている。</p> <p>(3) 看護部感染対策委員会：12回開催 構成員は看護師長・副師長・主任・副主任で、リンクナースを統括し、看護職の感染対策に関する教育・指導を行う。</p> <p>(4) エピネットワーキング：9回開催 消化器内科医をリーダーとし、血液内科医、学園職員課事務職員、感染管理室担当者、看護部感染対策委員会代表者、医療安全管理者・臨床検査技師、臨床工学技士で構成され、針刺し損傷や皮膚粘膜曝露に関する報告事案を確認し、問題点、改善案について検討する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 66 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として動画配信により職員教育講演会を開催。第1回目は院内講師による薬剤耐性菌検出状況及び環境整備・手指衛生に関すること、抗菌薬適正使用に関する講演会、第2回目は院内講師によるワクチンに関する事および院内感染対策の重要性と抗菌薬適正使用に関し講演した。また中途採用者を対象にしたDVD講演会を実施している。全職種を対象にN95マスクのフィットテストも実施した。部署ごとに合わせた研修も実施している。詳細は以下の通りである。</p> <p>●職員教育講演会 動画配信</p> <p>1回目 1)「当院における薬剤耐性菌対策」 ①「当院における抗菌薬使用状況について」 ②「当院における薬剤耐性菌の検出状況について」 ③「当院における環境整備、手指衛生について」 開催日：2024年6月10日（動画配信開始） 医師 6月10日～6月22日 看護部 6月10日～7月6日 上記以外 6月24日～7月6日 講師：①感染管理室 室長 大石 智洋 ②感染管理室 専従医師 吉岡 大介 ③感染管理室 専従看護師 大取 俊絵 受講者：総計2,195名</p> <p>2回目 1)①「ワクチンについて」 ②「院内感染対策の重要性～COVID-19を経験して～」 ③「当院における抗菌薬使用状況について」 開催日：2024年12月9日（動画配信開始） 医師 2024年12月9日～2024年12月21日 看護部 2024年12月9日～2025年1月11日 上記以外 2024年12月23日～2025年1月11日 講師：①感染管理室 室長 大石 智洋 ②感染管理室 専従医師 吉岡 大介 ③感染管理室 専任薬剤師 藤井 哲英 受講者：総計2,122名</p>	

- 中途採用者・復職者対象DVD講演会 計12回
 医師以外のメディカルスタッフ対象「当院における医療安全管理・院内感染管理の取り組みについて」
 開催日：2024年4月12日、5月10日、6月7日、7月5日、8月2日、9月6日、
 10月4日、11月1日、12月6日、2025年1月10日、2月7日、3月7日
 講師：感染管理室 専従医師 吉岡 大介
 医療安全管理室 専従看護師 兼光 洋子
 医療安全管理室 専従薬剤師 二宮 洋子
 MEセンター 臨床工学技士 田中 直子
 DVD講演会：毎月第1金曜日に開催 計12回
 出席者：108名

- 新採用・中途採用・復職医師対象
 「当院における医療安全管理・院内感染対策の取り組みについて」
 講師：感染管理室 室長 大石 智洋
 医療安全管理室 室長 金藤 秀明
 医療安全管理室 専従主任薬剤師 二宮 洋子
 MEセンター 技士長補佐臨床工学技士 田中 直子
 受講方法：Web、DVD視聴 受講者数計52名

- 新入職研修医・新入職看護師及び希望する全職種対象 計12回
 「N95マスクフィットテスト」
 開催日：2024年4月6日・8日・9日・11日・12日・15日・16日・17日・18日・22日・23日・24日・
 25日
 出席者：160名

- 研修医対象 計1回
 ①研修医オリエンテーション
 「Standard Precautions とは何か・手指衛生はなぜ必要か・血液培養採取時に必要な知識とは・
 薬剤耐性に対する病院内の取り組みとは・針刺し損傷の予防と対策とは」
 演習：手指消毒と手洗い、PPE 着脱、N95 マスクフィットテスト
 開催日：2024年4月6日
 講師：感染管理室 専従医師 吉岡 大介
 感染管理室 兼任看護師 平田 早苗
 感染管理室 専従看護師 世良 紳語
 感染管理室 兼任看護師 山下 真利
 感染管理室 専従看護師 大取 俊絵
 感染管理室 兼任看護師 寺尾 有子
 感染管理室 専従看護師 石井 康太
 出席者：25名

- リンクドクター対象 リンクドクター連絡会 計31回
 ①「院内感染対策の基本～手指衛生～」
 開催日：2024年5月13日・14日・23日（追加開催：27日・28日）
 講師：感染管理室 専従医師 吉岡 大介
 司会：感染管理室 専任医師 大石 智洋
 出席者：計36名(出席率100%)

- ②「J-SIPHE 導入について・バリキサの適応外承認について・フェトロージャ(セフィデロコル)に
 ついて・15価肺炎球菌ワクチンについて」
 開催日：2024年7月19日・22日・23日（追加開催：26日・29日・30日）
 講師：感染管理室 専任薬剤師 藤井 哲英
 司会：感染管理室 専任医師 大石 智洋
 出席者：計36名(出席率100%)

- ③「抗酸菌塗抹検査法の変更・非結核性抗酸菌薬剤感受性試薬の変更・一般細菌薬剤感受性試薬
 の変更・その他」
 開催日：2024年9月10日・12日・13日（追加開催：20日・24日・27日・10月1日・4日）
 講師：感染管理室 専任臨床検査技師 村上 悦子
 司会：感染管理室 専任医師 大石 智洋
 出席者：計36名(出席率100%)

- ④「ワクチンについて」
 開催日：2024年11月18日・19日・21日
 講師：感染管理室 専任医師 大石 智洋
 司会：感染管理室 専任医師 大石 智洋

出席者：36名(出席率100%)

- ⑤「インフルエンザ発生状況について・インフルエンザ院内発生時の対応について・抗菌薬マニュアルについて（各診療科領域のマニュアルの再確認・改定のお願い、血中濃度モニタリング(TDM)の改定）・その他の連絡」

開催日：2025年1月14日・16日・17日（追加開催：23日・24日）

講師：感染管理室 専任薬剤師 隅田 英幸

司会：感染管理室 専任医師 大石 智洋

出席者：36名(出席率100%)

- ⑥「病院機能評価の講評・COVID-19について・クロストリディオイデス・ディフィシル感染症(CDI)の感染対策」

開催日：2025年3月4日・10日・14日（追加開催：18日）

講師：感染管理室 専任看護師 石井 康太

司会：感染管理室 専任医師 大石 智洋

出席者：36名(出席率100%)

- 総合医療センター勤務予定者を含む看護師、メディカルスタッフ対象

- ①新入職員研修「院内感染対策について」

開催日：2024年4月2日

講師：感染管理室 専任医師 大石 智洋

出席者：211名

- 看護師対象

- ①新入看護職員入職時研修「院内感染対策について」

開催日：2024年4月3日

講師：感染管理室 専任医師 吉岡 大介

出席者：101名

- リハビリテーションセンター新入職員対象

「新入職員オリエンテーション」

開催日：2024年4月3日

講師：感染管理室 専任医師 吉岡 大介

感染管理室 兼任看護師 平田 早苗

感染管理室 兼任看護師 山下 真利

感染管理室 専任看護師 石井 康太

出席者：5名

- 栄養部新入職員対象

「新入職員オリエンテーション」

開催日：2024年4月3日

講師：感染管理室 兼任看護師 平田 早苗

感染管理室 兼任看護師 山下 真利

感染管理室 専任看護師 石井 康太

出席者：5名

- 中央検査部新入職員対象

「新入職員オリエンテーション」

開催日：2024年4月3日

講師：感染管理室 兼任看護師 平田 早苗

感染管理室 専任看護師 大取 俊絵

感染管理室 専任看護師 石井 康太

出席者：3名

- MEセンター新入職員対象

「新入職員オリエンテーション」

開催日：2024年4月24日

講師：感染管理室 兼任看護師 平田 早苗

感染管理室 専任看護師 世良 紳語

出席者：4名

- 中央放射線部新入職員対象

「新入職員オリエンテーション」

開催日：2024年4月4日

講師：感染管理室 専任看護師 世良 紳語

感染管理室 専任看護師 大取 俊絵

感染管理室 専任看護師 石井 康太

出席者：3名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 医師・看護師・薬剤師・検査技師で構成されたICTコアメンバーで週1回集まり、ICTコアミーティングとして活動状況や月1回集計される抗菌薬（注射）の内容やJANIS報告について報告・討議している。
 - ・ 院内感染週報として毎週院内の耐性菌発生状況が報告され、それによりICTラウンドとは別に病棟ラウンドも随時行っている。またCRE等注意すべき薬剤耐性菌については、院内での検出状況を日々確認しており、状況によっては特別に当該部署への巡視を行い、適切な感染対策がとられているかなどさらなる確認を行うなどの積極的に感染制御活動している。
 - ・ 血液培養やその他培養結果に対する抗菌薬の選択、抗菌薬長期使用など、抗菌薬適正使用について問題がある症例に対して毎週2回AST会議を開催し、検討・介入・評価している。
 - ・ 血液・体液曝露に関してエピネットワークンググループで、報告事例の分析と対策の検討を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修医オリエンテーション、医薬品安全管理」2024. 4. 8 ○ IV ナース養成のための学習会」レベル 2-1 薬剤の基礎知識 2024. 5. 10 ○ IV ナース養成のための学習会」レベル 3 薬剤の基礎知識 2024. 7. 12 ○ 注意を要する医薬品について」Web 視聴+確認テスト 視聴期間 2025. 2. 4～3. 15 対象：研修医 1 年、及び勤務 1 年未満の看護職員・薬剤師 ○ 医薬品の安全使用に向けて ～医薬品安全管理委員会 活動報告～ 2025. 2. 17～3. 22Web 配信 対象：全職員 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 手順書の定めに従ってマニュアルを作成し、業務を実施している。 ○ 「業務実施確認チェックリスト」を用いて、半年に 1 回、実施状況を確認している。 ○ 病棟、外来処置室等、医薬品を配置している部署に薬剤部員が出向き当該部署の職員とともに「医薬品管理チェックリスト」を用いて、部署における安全使用を確認している 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> ● 適応外使用 (審議・承認済み) <ul style="list-style-type: none"> ○ 精巣癌に対する GEMOX 療法 ○ 免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連肝炎に対する ミコフェノール酸モフェチル (セルセプト[®]) の適応外使用 ○ 注射用カリウム製剤の高濃度投与 (KCL2 倍希釈液を除く) (2 診療科) ○ 矮小陰茎に対する テストステロン外用剤塗布治療 (2 診療科) ○ 門脈血栓症に対する DOAC (経口直接 Xa 因子阻害剤) 投与 (変更申請) ○ 持続局所抗菌薬還流 (CLAP: Continuous Local Antibiotics Perfusion) 療法 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ● 下記情報について、イントラネットで医師及び関係部門に配布、電子カルテのトップ画面に掲載 <ul style="list-style-type: none"> ○ D S U (厚生労働省医薬食品局監修、医薬品安全対策情報) ○ 医薬品・医療機器等安全性情報 (厚生労働省医薬食品局安全対策課) ● 「安全性情報」に関して、方策の実施事例 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「チガソソカプセル」同意取得確認 (12 回) 初回の同意取得はとれているものの、継続処方時の同意については、まだ一部の医師については行っていない。引き続き注意喚起を行う。 ○ 「リフキシマ」「リクシアナ」販売名類似によるオーダ間違いについて (12 回) 処方履歴を確認したところ問題なし ○ ACE 阻害剤、ARB 等の適正使用のお願い：胎児への影響と注意事項について (12 回) → 全医師に配信。電子カルテトップページへ掲載。薬剤部員へ情報提供 処方歴も確認。該当なしを確認 ○ 「サイトテック錠」妊娠または妊娠している可能性のある女性への投与について (12 回) → 産婦人科医師へ情報提供依頼 (ファイザー)。薬剤部全員へ情報提供 処方歴も確認。該当なしを確認。 ○ 「プロウペス腔用剤」適正使用に関するお願い 子宮収縮薬の使用にあたっての患者への説明と同意。分娩監視装置を用いた連続的なモニタリングの実施について → 製造販売会社から産婦人科医師へ情報提供依頼 薬剤部全員に情報提供 ○ 「ベンリスタ点滴静注用」適正使用に関するお願い うつ病、自殺念慮及び自殺企図の発現に関する注意喚起 	

- 腎臓内科、リウマチ膠原病科医師に情報提供依頼（GSK）。薬剤部全員に情報提供
- 「プロスタルモンF注射液」適正使用のお願い：子宮収縮薬の使用にあたっての患者への説明と同意。分娩監視装置を用いた連続的なモニタリングの実施について
 - 製造販売会社から産婦人科医師へ情報提供依頼
 - 薬剤部全員に情報提供
- 「アトニン0注」適性使用に関するお願い
 - 子宮収縮薬の使用にあたっての患者への説明と同意。分娩監視装置を用いた連続的なモニタリングの実施について
 - 製造販売会社から産婦人科医師へ情報提供依頼
 - 薬剤部全員に情報提供
- 「オスタバロ皮下注カートリッジ」適性使用に関するお願い
 - 投与に際しては本剤をオスタバロインジェクターに取り付けて投与する
 - 整形外科へ情報提供依頼（帝人ファーマ）、薬剤部員へ情報提供
- 注射用カリウム製剤のオーダー時の投与速度入力依頼メッセージの追加
 - 注意喚起追加（2倍希釈 高濃度KCL注射液、アスパラギン酸カリウム注キット）
- 「エプキンリ皮下注4mg、同48mg」適性使用のお願い
 - サイトカイン症候群について
 - 血液内科医師へ情報提供依頼（アッヴィ合同）、薬剤部員へ情報提供
- 「ページニオ錠」投与における間質性肺炎疾患に関するお願い（2回）
 - 乳腺甲状腺外科医師へ情報提供依頼（日本イーライリリー）、薬剤部員へ情報提供
- 「RevMate」男性患者に対する避妊の教育徹底のお願い
 - 血液内科医師へ情報提供依頼（BMS）、薬剤部員へ情報提供
- 「プリモニジン酒石酸塩点眼」適正使用のお願い
 - 角膜混濁の報告が集積されている
 - 眼窩医師へ情報提供依頼（千寿製薬）、薬剤部員へ情報提供
- TDMのeXChartのフォーマット
 - わかりやすく変更（インシデントを受け）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年175回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 新規導入機器の研修：人工呼吸器、治療用電気手術器、汎用超音波画像診断装置、開閉式保育器など（2024.4～2025.3 実績82件） ・ 定期研修：人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置等の生命維持管理装置など（2024.4～2025.3 実績93件） ・ 上記研修会に関しては、各部署からの個別研修依頼の対応や、インシデント発生時に対応するための研修会等も含む。 ・ 新人職員（看護師、研修医等）研修：医療機器に関する安全研修全般、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ MEセンターによる中央管理機器（人工呼吸器、除細動器、保育器、血液浄化関連装置、体外循環装置、輸液シリンジポンプ等） ・ 放射線関連機器については、診療放射線技師による日常点検及びメーカーにて定期点検を実施 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> ：視野計測定装置 Gazefinderを用いた眼球運動の測定 2024年度の検討件数1件 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 情報収集の方法 <ul style="list-style-type: none"> 外部メーカーや業者からの入手、PMDA及び厚生労働省等からの入手（メール登録含む）、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会などの開催時における各部門からの報告による入手。 ・ 情報の周知方法 <ul style="list-style-type: none"> 院内医療機器研修会及び院内職員教育講演会等による従事者への情報提供（資料配布含む）、新人等に対する研修（4月～6月）含む。 また、電子カルテ端末及び院内電子掲示板を利用してMEセンターから職員へ周知、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会の定期的な開催による報告と情報収集、ニューズレター（医療安全管理部発行・毎月1回発行）回覧による職員への周知。 ・ 自主回収の情報収集及び改善のための方策の実施 <ul style="list-style-type: none"> 関係部署及び職員に通知文にて周知、及び医療機器安全管理委員会を通じて報告周知等（血液浄化装置、除細動器、補助循環装置、放射線診断装置、医療材料等）。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副院長が「医療安全管理責任者」として、医療安全管理室、病院医療安全管理委員会に加え、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、医療放射線安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (9名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤部内に医薬品情報室を設置し、常勤の薬剤師を専従で配置している。収集した情報を評価した上で分類・整理し、情報提供する内容、対象、方法を検討する。電子カルテを利用して過去の処方状況等を確認し、その薬剤を処方している医師に適確に情報が伝わるよう工夫している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>調剤業務や薬剤管理指導業務を通じて薬剤師が未承認薬等の使用を把握した場合は、医師に疑義照会し、ガイドライン、文献報告、エビデンスレベル等を確認する。それらを評価した上で、他の方法に変更できないか、医師と協議する。その結果、未承認薬等の使用が行われた場合、薬剤師は医薬品情報室に報告する。医薬品情報担当者は、情報を収集・評価・整理し、医薬品安全管理責任者に報告する。医薬品安全管理責任者は医薬品安全管理委員会に報告し、必要な措置を検討する。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：DIA 報告症例に関して医療安全管理室で今年度一部修正したインフォームド・コンセント取得ガイドラインに則した記載・対応ができていないか確認している。説明・同意書の各書式については、病歴委員会において上記ガイドラインに則した記載となるよう検討・指導・承認を行っている。記載内容</p>	

に不備がある場合は、個別に指導を行っている。チャート・レビュー小委員会で、チャート・レビュー対象症例全例と適正保険診療確認対象症例に対して、副院長・院長補佐が実施確認し、適正に評価している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副院長が診療記録管理部門である医療資料部の部長（責任者）を兼務している。 （質的監査） ・医師・メディカルスタッフ（8職種）・多職種の体制による質的監査。 ・医師記録は、各診療科のチャート・レビュー担当医が評価基準とチェックシートに基づき他診療科分を監査。「良」「不良」評価後はチャート・レビュー小委員会で再レビュー。 ・メディカルスタッフの記録は、各職種の点検者が運用手順とチェックシートに基づき監査。 ・多職種の記録は、医師・複数職種が専用の評価基準とチェックシートに基づき監査。 ・メディカルスタッフ・多職種のレビュー結果は、チャート・レビュー小委員会へ報告。不備な点があれば、委員長・点検者・看護責任者・所属長が必要に応じて指導。 ・チャート・レビュー小委員会議事録は、病院運営委員会・診療部長会へ報告。 ・チェックシートの結果は、当該科診療部長・看護責任者・所属長、担当医らへフィードバックし、記録とチーム医療の質の向上に活用。 （量的監査） ・全退院・転科患者に対して20項目（回診・カンファレンス記録、他院からの紹介状、アレルギー情報、検査所見、透析記録、手術記録、インフォームド・コンセント等）について量的監査。 ・プログレスノートの記載が入院日数の2/3未満の場合は、紙面で当該科診療部長、担当医へ報告し記載充実を促す。 ・入院1号紙（eXChart）が未記入の場合は、紙面で当該科診療部長へ報告し記載充実を促す。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（4）名、専任（4）名、兼任（5）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（1）名、専任（3）名、兼任（2）名 うち臨床工学技士：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち事務：専従（1）名、専任（1）名、兼任（0）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の主な内容： 	

1. 1 か月間・100 床当たりのインシデント・アクシデント発生件数
2. インシデント・アクシデント報告のうち医師による報告の占める割合
3. 重要レポートの対応率（画像診断・病理診断）
4. 中心静脈カテーテル挿入時の重篤合併症発生率
5. 手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率
6. 手術ありの患者の肺血栓塞栓症の発生率
7. 転倒転落発生率
8. 転倒転落による負傷発生率
9. 65 歳以上の入院患者の転倒・転落発生率
10. 入院手術患者の術後 48 時間以内緊急再手術割合
11. 一定期間中の手術後 30 日以内緊急再手術割合（手術後 48 時間以内を含む）

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6 件）、及び許可件数（5 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：
高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門である高難度新規医療技術評価室では、診療科の長から申請された内容について、高難度新規医療技術評価小委員会で審議された意見に基づき、当該技術提供の適否等について決定し、医療安全管理部を介して診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。評価室長は、高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、診療録等の記載内容の確認など、従事者の遵守状況の確認を行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（医薬品：8 件、医療機器：1 件）、
及び許可件数（医薬品：8 件、医療機器：1 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬

品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

【未承認新規医薬品評価室】

診療科の長から申請された未承認新規医薬品等の使用の適否、実施を認める場合の条件等について審議する。必要に応じて小委員会（未承認新規医薬品評価小委員会）を召集する（2024年度は招集なし）。

評価室長は（小委員会を召集した場合はその意見も踏まえて）使用の適否、実施条件等について決定し、診療科の長に結果を通知するとともに、病院長に報告する。（この後、医療倫理委員会での審議・承認を経て、正式承認となる。）

使用許可後も、適正な医療が提供されているかどうか定期的に確認する。

【未承認新規医療機器評価室】

未承認新規医療機器（材料）を用いた医療提供実施申請書の提出により、未承認新規医療機器評価室のメンバーが招集またはメールにて、未承認新規医療機器評価小委員会の開催の有無について審議する。小委員会開催が不要と判断された申請内容については、当該評価室で使用許可の可否を決定する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 391 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 106 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 報告された医療安全問題（インシデント報告、アクシデント分析・死亡事例や検討事項）の調査・分析、改善方策の立案・実施・周知に関すること
2. 1の改善方策の実施状況の調査、方策の見直しに関すること
3. 重要な検討内容について、患者への対応状況を含め管理者への報告内容に関すること
4. マニュアルの作成、改訂に関すること
5. 医薬品・医療機器・医療放射線の安全使用に関すること
6. 教育・研修と啓発に関すること
7. その他、医療安全に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：大阪医科薬科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：大阪医科薬科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況： インシデント・アクシデント集計システムの導入や委員会回数など業務の見直しについての提案

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口

本館 2 階 患者診療支援センター「患者相談窓口」設置

相談時間 月曜日～土曜日 9 時～17 時（土曜日は 12 時 30 分まで）

※休診日は除く

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

①2024 年度新入職員医療安全研修

4 月 4 日看護師 101 名

4 月 5 日事務職員 5 名、臨床工学技士 4 名、診療放射線技師 3 名、臨床検査技師 3 名、
管理栄養士 3 名、調理師 2 名、理学療法士 3 名、作業療法士 3 名

4 月 8 日薬剤師 5 名、研修医 25 名

医師は Web 視聴による受講：33 名

②医療安全管理と院内感染対策に関する中途採用者・復職者研修

原則毎月第 1 金曜日開催（メディカルスタッフ）※医師は Web 視聴による受講

中途採用者研修（医師含む）：68 名

復職者研修（医師含む）64 名

③IV ナース養成研修：新人 98 名

④皮下植込み型中心静脈ポート：2025 年 2 月 13 日・14 日（同一内容 28 名）

⑤「注意を要する医薬品について」Web 視聴+確認テスト：視聴期間 2025. 2. 4～3. 15

対象：研修医 1 年、及び勤務 1 年未満の看護職員・薬剤師

研修医 25 名、看護師 98 名、薬剤師 5 名 合計 128 名

⑥研修医対象医療機器安全オリエンテーション、人工呼吸器、除細動器、輸液・シリンジポンプ

研修会：

・医療機器オリエンテーション 2024 年 4 月 10 日 25 名

・人工呼吸器、除細動器、輸液・シリンジポンプ研修 2024 年 4 月 10 日 25 名

・呼吸：NPPV、HFNC 研修 2023年9月6, 24, 26日（同内容で3回開催）24名（J1のみ）

⑦医療機器安全管理体制の確保に関わる研修（人工呼吸器・補助循環・血液浄化、除細動器）

Web 視聴+確認テスト：視聴期間 2025年2月25日～4月10日 2112名

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

●管理者

・2024年度特定機能病院管理者研修

●医療安全管理責任者

・2024年度 JQ 医療安全管理者要請研修

・2024年度特定機能病院管理者研修

●医薬品安全管理責任者

・令和6年度がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会 2024年10月19日

・2024年度特定機能病院管理者研修 2024年12月12日

・令和6年度日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会 2025年1月18日

●医療機器安全管理責任者

・【オンライン開催】2024年度第3回施設・環境・設備安全セミナー 2025年1月15日

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構 「3rdG : Ver. 3.0」 （一般病院3）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページに、日本医療機能評価機構の評価結果のリンクを貼っている。

・評価を踏まえ講じた措置

当院該当委員会において各々対策をとり、進捗状況は業務改善委員会及び病院運営委員会で管理している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許を有している者 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 医療安全管理について十分な知見を有するとともに、医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること。 3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院または当院以外の病院での組織管理経験、病院経営能力及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有すること。 4. 川崎医科大学附属病院の理念等を実現するために必要な資質・能力を有している者 川崎医科大学附属病院の理念および基本方針を理解し、その実現に向けた強い意志と強力なリーダーシップを有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 学校法人 川崎学園 ホームページ (病院長の選考時においてホームページで公表した)
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無																				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 学校法人 川崎学園 ホームページ 																					
<p>管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由</p> <p>※以下の名簿は前回の管理者選考における委員である。次回は変更の可能性あり。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>所属</th> <th>委員長 (○を付す)</th> <th>選定理由</th> <th>特別の関係</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川崎 誠治</td> <td>学校法人川崎学園</td> <td>○</td> <td>規程第6条第1項第1号委員 (理事長)</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</td> </tr> <tr> <td>砂田 芳秀</td> <td>川崎医科大学</td> <td></td> <td>規程第6条第1項第2号委員 (医科大学学長)</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</td> </tr> <tr> <td>三宅 康晴</td> <td>学校法人川崎学園</td> <td></td> <td>規程第6条第1項第3号委員 (大学事務局長)</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</td> </tr> </tbody> </table>		氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係	川崎 誠治	学校法人川崎学園	○	規程第6条第1項第1号委員 (理事長)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	砂田 芳秀	川崎医科大学		規程第6条第1項第2号委員 (医科大学学長)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	三宅 康晴	学校法人川崎学園		規程第6条第1項第3号委員 (大学事務局長)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係																	
川崎 誠治	学校法人川崎学園	○	規程第6条第1項第1号委員 (理事長)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無																	
砂田 芳秀	川崎医科大学		規程第6条第1項第2号委員 (医科大学学長)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無																	
三宅 康晴	学校法人川崎学園		規程第6条第1項第3号委員 (大学事務局長)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無																	

森谷 卓也	川崎医科大学附属病院		規程第6条第1項第4号委員 (附属病院の診療科部長：病院病理部部長) 診療科部長として、病院の理念に則った病院運営に貢献している。	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
平松 貴子	川崎医科大学附属病院		規程第6条第1項第5号委員 (附属病院の職員：看護部長) 部門の責任者として、病院の理念に則った病院の運営に貢献している。	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
清水 信義	公益社団法人岡山県医師会		規程第6条第1項第6号委員 (学園外の有識者：岡山県医師会監事) 医学・医療及び医療安全等に関し広くかつ高い識見を有している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
藤原 健史	株式会社山陽新聞社		規程第6条第1項第6号委員 (学園外の有識者：山陽新聞社取締役総務局長) 岡山県の医療・保健・福祉全般に豊富な知識を有している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
秋山 祐治	学校法人川崎学園		規程第6条第1項第7号委員 (その他理事長が必要と認める者：副理事長)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>①病院機能の維持・増進計画に関する事項 ②病院の組織機構に関する事項 ③病院の事業計画に関する事項 ④病院の規程に関する事項 ⑤病院の重要な診療・教育・研究に関する事項 ⑥病院の重要な財政計画に関する事項 ⑦病院の重要な人事に関する事項 ⑧病院の重要な行事計画に関する事項 ⑨病院の重要な渉外に関する事項 ⑩病院の重要な施設・設備の整備に関する事項 ⑪病院の秩序に関する事項 ⑫病院の労務・厚生に関する事項 ⑬その他病院の合理的な管理と円滑な運営を図るために必要な事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医師に対しては月例の診療部長会にて診療部長に伝達し、診療部長から管下医師に周知する。医師以外の職員に対しては月例の業務連絡会にて所属長に伝達し、所属長から管下職員に周知する。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
永井 敦	○	医師	病院長
上村 史朗		医師	副院長
三谷 茂		医師	副院長
秋山 祐治		医師	副院長
和田 秀穂		医師	特別院長補佐
下屋 浩一郎		医師	院長補佐
上野 富雄		医師	院長補佐
金藤 秀明		医師	院長補佐
八木田 佳樹		医師	院長補佐
椎野 泰和		医師	院長補佐
戸田 雄一郎		医師	院長補佐
大石 智洋		医師	院長補佐
曹 英樹		医師	院長補佐
菱川 朋人		医師	院長補佐
平松 貴子		看護師	看護部長
守田 光宏		事務職員	病院事務部長
足立 季久		事務職員	病院庶務課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
学校法人川崎学園寄附行為及び学校法人川崎学園業務決定委任規程により、病院の所管において行われる医療、研究及び運営に関する通常業務（※）の決定は、病院長の職にある理事にこれを委任すると定められている。
（※法令及び学園の寄附行為の規程により評議員会に付議する事項その他学園の業務に関する重要事項を除く業務）
また、川崎医科大学附属病院職務規程により、病院長は理事会の定める方針に従い、病院全般の管理運営を行うと定められている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
幹部職員として、病院長のほか、副院長、院長補佐、看護部長、病院事務部長を置いている。
副院長、院長補佐、看護部長は病院長の推薦に基づき理事長が任命する。
副院長は、病院長を補佐し、所掌業務を総括処理する。
院長補佐は、病院長が指示した分掌に従って業務を分担し、病院長を補佐する。
看護部長は、病院長の命に従い看護業務を統括し、所属職員を指揮監督する。
病院事務部長は、病院長の命に従い事務業務を総括し、所属職員を指揮監督するとともに、病院各部門及び事務局との調整をはかり、病院長を補佐する。
また、病院の運営を円滑に遂行することを目的として各種委員会が設けられており、委員会は委員長が諮問機関として、担当領域の企画・運営に必要な事項を審議することとなっている。委員長および委員は病院長が囑託する。副院長、院長補佐は各委員会の委員として担当する委員会を持ち、各委員会での審議事項について病院運営委員会に諮る。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院長をはじめ幹部職員は学外の研修会等を受講している。
2024年度受講研修会例
日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修
岡山県病院協会 経営管理研修会 他

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容： 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、診療用放射線安全管理委員会の業務の状況について報告を受け、業務が適切に実施されているか確認を行う。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・公表の方法： 病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
江澤 和彦	医療法人和香会 理事長	○	医療に関する 学識経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
佐々木 基彰	クオーレ法律事 務所弁護士		法律に関する 見識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
小林 洋明	会 福 祉 法 人 山陽新聞社会事 業団事務局長		一般の立場の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
砂田 芳秀	川崎医科大学 学長		医療に関する 学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
平井 敏弘	尾道市立総合医 療センター・公 立みつぎ総合病 院、外科顧問		医療安全管理に関 する見識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事（常勤1名・非常勤1名）が業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況の適正について監査を行っている。業務監査により、業務が建学の精神・理念や法令・寄附行為等に準拠して適正かつ有効的及び効率的に運用されているか、また、業務執行について、法令及び寄付行為を遵守し、忠実にその職務を行っていることを検証している。

- ・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ ）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院長及び事務部長が開設者（理事長）に業務遂行状況について毎月定例で報告を行っており、開設者が病院の管理運営状況を監督する体制となっている。 また、理事会においては、監事が業務監査の結果を理事会に対し報告し、意見表明を行う体制となっている。さらに管理者は理事・評議員となっており、理事会及び評議員会並びに学園運営協議会において、病院運営に関する重要事項が審議・決定される際には、病院側の意向が十分に勘案される体制となっている。 ・ 会議体の実施状況（ 年 20 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年 20 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)
・ 通報件数 (年 0 件)
・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)
・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)
・ 周知の方法 電子カルテ・学園ポータル等に掲示

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 情報発信の方法、内容等の概要<ul style="list-style-type: none">・ ホームページによる情報発信・ 患者向け病院広報誌、地域医療機関向け広報誌などの発行による情報発信・ 上記方法により、地域の皆様、医療機関に対し、当院の役割、先進医療や高度な医療の実績などを広く公開している。・ 市民公開講座や医学講演会を開催し、最新の医療情報を発信している。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要<ul style="list-style-type: none">・ 入院、外来患者とも院内他科紹介により、専門の医師が連携して最適な治療を提供している。・ がん患者に対し、カンサーボードにて最適な治療法の検討を行っている。・ 入院、外来とも臓器・機能別とし、専門スタッフによるチーム医療を行っている。	